

工学部・工学研究科資料集

2023.11 Vol.15

福岡大学

工学部・工学研究科資料集

福岡大学
工 学 部
工 学 研 究 科

令和4年度 工学部・工学研究科資料集 目次

1	工学部の教育活動・教育改善活動	
1.1	工学部全体の教育改善活動	2
1.2	各学科の教育活動および教育改善活動	2
2	大学院工学研究科の教育活動	
2.1	入試状況	17
2.2	学生在籍状況	18
2.3	学年暦	19
2.4	専門科目一覧	20
2.5	修士論文と博士論文、学生が受賞した学術賞	31
3	研究活動	
3.1	学術論文と学会発表、学術賞	35
3.2	科学研究費採択課題一覧	36
3.3	産学連携活動の外部資金(受託研究・研究助成・共同研究)	37
4	入学・広報活動	
4.1	入試制度	38
4.2	入試状況	39
4.3	模擬講義	41
5	教務・図書・学生支援	
5.1	学生在籍状況	42
5.2	学年暦	43
5.3	専門科目一覧	44
5.4	図書工学部分室書籍貸出数	50
5.5	学生が取得した資格	51
5.6	「学習意欲向上と工学基礎教育の充実」プロジェクト	52
6	国際交流	
6.1	学生の留学状況	54
6.2	大学間協定・部門間協定	54
7	就職・進路状況	
7.1	就職状況	57
7.2	大学院進学	59
8	地域貢献	
8.1	社会へのサービス活動	62
8.2	社会へのボランティア活動	66
8.3	学外組織との連携協力による教育研究の推進	67
9	工学部の組織体制	68

はじめに

工学部長 辰巳 浩
工学研究科長 佐藤 寿倫

本資料集は、工学部および工学研究科の活動状況を記録に残し学内外に公開するために、第1号の工学部・工学研究科報を2005年11月に発行して以来、今回で15回目の発行となります。

令和4年度における工学部および工学研究科の様々な活動や取り組みの状況をまとめています。教育・教育改善活動については、工学部全体および各学科・各研究科の活動を記載し、研究活動、入学・広報活動、教務・図書・学生支援、国際交流、就職・進路状況については、現状と改善点などを記載しています。また、社会へのサービス活動やボランティア活動、学外組織との連携協力による教育研究の推進といった地域貢献については新たな取り組みの内容を記載しています。

令和4年度は、新型コロナウイルスの感染症の拡大が落ち着きを見せつつあるとはいえ、工学部・工学研究科においては、大学の基本方針に従い、肃々と教育・研究を進めてきました。

教育活動については感染防止に極力留意しながら、対面授業を基本とし、様々な工夫を行なながら実施しました。また、ものづくりセンターにおいては、令和5年度はロボコン等、3年ぶりに対面での出場を予定しており、それらに向けて活動する予定です。

1962年に機械工学科と電気工学科で創立された工学部は、2023年に61周年を迎えております。今後もより一層の教育の質向上に取り組み、環境の充実を図っていきたいと思います。また、学部・学科の垣根を越えた新しい教育やプロジェクトを進めていきたいと考えています。

第1章 工学部の教育・教育改善活動（令和4年度）

1.1 工学部全体の教育改善活動

1.1.1 教育改善活動

(1) 共通教育センター・工学部懇談会

例年通り3月半ばに開催を予定していたが、新型コロナウイルス蔓延防止の観点から、両部署間で協議の上で見合わせることとし、例年提供頂いている内容資料の提供を受け、メールでの意見交換の実施により懇談会の代替とした。

(2) 理学部・工学部懇談会

令和5年3月30日に理学部・工学部懇談会を開催し、主に工学共通科目に関する意見交換を行った。理学部からは、実験科目の運用、BYODについて、6号館AV卓の鍵の運用方法についての議題が挙げられた。一方、工学部からは、アスリート特別選抜・留学生クラスと工学共通科目の時間割重複、工学共通科目「行列と行列式」の名称および内容変更について、配慮が必要な学生の情報についての議題が挙げられた。

1.1.2 活動全般の成果および点検・評価

(1) 共通教育センターおよび理学部との懇談会

新型コロナウイルスの影響で、共通教育センターとの対面での懇談会は開催できなかつたが、例年同様の情報共有およびメールでの意見交換を実施した。理学部・工学部懇談会では、理学部から工学共通科目の状況に関する状況の説明がなされ、情報が共有された。また、工学部からは昨年に引き続き工学共通科目の時間割に関する要望が出され、次回の時間割編成時に理学部で検討するだけでなく、共通教育科目の調整も検討することが確認された。

1.2 工学部各学科の教育活動および教育改善活動

1.2.1 機械工学科

1.2.1.1 教育活動

昨年度に引き続き、通常の教育活動に加えてキャリア教育を充実するために以下の活動を実施した。

(1) 1年生に対し外部講師によるコンピテンシー講座、診断とフォローアップ講座はビデオにより実施した。

(2) OBなどの外部講師によるキャリア教育

3年生に対してOBとの面談をWEB上で実施した。

① 富士通ゼネラル（令和4年10月6日）

② 東芝プラントシステム（令和5年2月3日）

③ 神鋼テクノ（令和5年2月4日）

- ④ モビテック（令和5年2月7日）
- ⑤ アスパーク（令和5年2月8日）
- ⑥ 日鉄テックスエンジ（令和5年2月14日）
- ⑦ アルプス技研（令和5年2月14日）
- ⑧ 竹田設計工業（令和5年2月17日）
- ⑨ 西部技研（令和5年2月18日）
- ⑩ リックス（令和5年2月24日）
- ⑪ SMC（令和5年3月3日）
- ⑫ 大林道路（令和5年3月4日）
- ⑬ 日産自動車（令和5年3月12日）
- ⑭ リックス（令和5年3月15日）
- ⑮ 西日本技術開発（令和5年3月24日）
- ⑯ 日鉄環境（令和5年3月25日）

1.2.1.2 教育改善活動

令和4年度は学科会議において、授業改善に関して以下のような項目について検討を行った。

- (1) 修学指導・支援の実施、退学・休学相談に関する報告、新入生スタートセミナーの実施
(令和4年4月13日・4月27日・5月18日・7月6日・7月27日・9月21日・11月16日・12月14日)
- (2) 卒業論文の必修化、配属方法および、カリキュラム改正について
(令和4年4月13日・4月27日・5月18日・6月8日・9月21日・10月5日・10月19日・10月26日・11月16日・12月7日)
- (3) 教育に関する会議報告
(令和4年5月18日・6月15日・7月27日・9月21日・10月19日・12月7日・12月14日・令和5年3月15日)
- (4) 教育内容（3D-CAD（FUSION360）の導入）・カリキュラム改正について
(令和4年6月8日・6月15日・7月27日)

1.2.1.3 学外研修等への参加状況報告

書籍

- (1) 「カーボンニュートラルが変える地球の未来—2050年への挑戦」晃洋書房
(共著者 大学院生1名、4年生1名)

学会発表

- (1) 「産業応用工学会全国大会 2022」 令和 4 年 9 月 8 日 兵庫
(学部 4 年女子学生 2 名、内 1 名が「優秀論文発表賞」を受賞)
- (2) 「Hydro Ghent、 Steelhydrogen2022 & BOKU Meeting」 令和 4 年 10 月 10 日
(大学院生 1 名)
- (3) 「第 66 回宇宙科学技術連合講演会」 令和 4 年 11 月 1~4 日 (大学院生 1 名)
- (4) 「第 60 回燃焼シンポジューム」 令和 4 年 11 月 21~24 日 (学部 4 年生 2 名)
- (5) 「第 31 回スペース・エンジニアリング・コンファレンス [SEC' 22]」
令和 4 年 12 月 9 日
【宇宙探査サークル FUROCK】 (学部 3 年生 1 名)
- (6) 「日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス部門競技会
フューチャードリーム！ロボメカデザインコンペ 2022」 令和 4 年 12 月 17 日
(大学院 9 名、学部生 3 名チーム) 「最優秀作品賞」、「三松社賞」受賞
- (7) 「令和 4 年度宇宙輸送シンポジューム」 令和 5 年 1 月 12~13 日 (学部 4 年生 1 名)
- (8) 「シンガポール国立大学における本学のカーボンニュートラル技術に関する協議」
協業の可能性について 令和 5 年 2 月 22 日~28 日 (学部 3 年女子学生 1 名)
- (9) 「日本機械学会九州支部の卒業研究発表講演会」 令和 5 年 3 月 3 日
宮崎大学 (学部 4 年生 1 名)
- (10) 「日本機械学会九州支部第 76 期総会・講演会」 令和 5 年 3 月 9 日
鹿児島大学 (学部 4 年生 1 2 名)
- (11) 「The 11th IIAE International Conference」 令和 5 年 3 月 26 日~30 日
沖縄 (学部 3 年生女子 1 名・英語)

工場・施設見学

- (1) 「THK 福岡ソリューションセンター」 令和 5 年 3 月 10 日 博多区
その他
- (1) 「能代宇宙イベント」 令和 4 年 8 月 11 日
【宇宙探査サークル FUROCK】自作ロケットの打ち上げ成功

1.2.1.4 活動全般の成果および点検・評価

- (1) 今年度は、ほぼ毎週学科会議を開催して学科教員間での情報の共有と意見交換を行
い、学科内でのチームワークと連係プレー、各教員の特質を生かした役割分担を行つ
てはいる。その結果、学生に対する教育方針が統一され、学生も一貫した指導方針に基
づいた教育を受けることができるので、安心して勉学に集中することが可能となっ
ている。
- (2) 今年度は、新入生を対象とした『自分発見！スタートアップセミナー』をオンライン
により実施した。このような人間関係を深めるセミナーは、これからの大學生のみ

ならず就職活動や社会に出てからも大いに役立ち、かつ学生達は今後の学生生活へと向けて、良い友達作りの輪を広げることができるため、来年度も引き続き実施したい。

- (3) 今年度は、3年生に対してOBと語る機会を対面で実施した。就職を控えた3年生にOBからの生の声を聞けたのは、就職した後の具体的な企業活動を知る上で大変に良い機会であったと考える。
- (4) 前期・後期では対面講義が実施され、卒論生、修士学生に対しては適切なコロナ感染予防対策を徹底することで、卒業論文、修士論文を完遂することができた。
- (5) 昨年度に比べコロナ禍の影響の改善が見られるが、「工場見学（短距離）」は企業の受け入れ態勢が整っておらず実施できなかったもの、施設見学を行った。次年度以降、状況の改善が見られた場合は施していきたい。
- (6) 機械工学科は卒論は選択科目であるが、必修化やその募集方法を継続的に話し合い、効果的な教育方法などを検討してきた。この課題については次年度も継続して行う。
- (7) ものづくり教育・BOYDの導入科目として「技術者リテラシーI」を位置づけ、3D-CAD(Fusion360)を用いた仮想的なものづくり体験を実施した。学生にはおおむね良好な反応が見られており、次年度も引き続き実施していく。
- (8) 今年度は、海外シンポジューム、日本機械学会などの講演会に多くの本学学生の発表あり、学生の研究活動が活発であった。海外発表においては2件の発表、また賞の受賞があり、よい経験をさせることができた。この中で女子学生の活躍が大きくなっている。例年以上の成果が挙げられた意義は大きい。

1.2.2 電気工学科

1.2.2.1 教育活動

(1) 新入生スタートアップセミナーの実施

開催日：令和4年4月7日（木）

参加者：新1年生

内容：記者会見(自己紹介)と相互インタビュー

(2) 新入生学科懇談会の実施

開催日：令和4年4月8日(金)

参加者：新1年生 および 全教員

内容：教授・准教授・助教 各担当科目および研究紹介

資格資料の配布・説明

学生生活上の注意

1.2.2.2 教育改善活動

令和4年度は学科会議（対面、メール審議）において、以下のような項目について討論・改善をおこなった。

- (1) 修学指導の対象者の検討（令和4年4月28日）
修学指導の対象者を選別する基準の検討をおこなった。
- (2) 教育の質に係る客観的指標についての検討（令和4年7月23日）
全授業科目に係る体系性・有機的連携を確保するための検討をおこなった。
- (3) 工学部 自己採点・評価 教職課程の検討（令和4年7月27日）
教職に対応する講義について、電気工学科以外のシラバス等も参照し、検討をおこなった。
- (4) 少人数教育科目「基礎電気工学」の実施方法検討（令和4年9月6日）
開講日程、グループ分け、テキスト、e-learning の適用方法、最終試験、講義資料の確認をおこなった。
- (5) 学位（教育）プログラムに3つのポリシーについて検討（令和4年10月18日）
一貫性・整合性を図りながら、メンバー間の意識の共有を図ることになった。

1.2.2.3 学外研修等への参加状況報告

特記すべき事項無し。

1.2.2.4 活動全般の成果および点検・評価

- (1) 電気工学実験Ⅲで使用している高電圧電源において、微量 PCB が混入した絶縁油を使用している変圧器があり、2026年までに廃却の必要があることから、計画的に更新していく。
- (2) Moodle を利用した e-Learning 用の教材は、学生一人ひとりに対応した学習が可能になるため、今後も適用の拡大をさらに進めていく。

1.2.3 電子情報工学科

1.2.3.1 教育活動

例年通り、通常の教育活動に加えてキャリア教育を充実するために以下の活動を行った。

- (1) 新入生スタートアップセミナーの実施

開催日：令和4年4月7日

場 所：オンライン

内 容：新入生間の親睦を図り、学生間のネットワーク構築を支援すべく、スタートアップセミナーを実施した。また、教員を交えたセッションも実施した。

- (2) 「先輩と語る」の実施

1年生科目「電子情報工学特論」の1コマを使って「先輩と語る」を実施した。卒業生

の株式会社ハコブネ・代表取締役の森淳氏には「人生に無駄なし…」、株式会社夢クリエイト・代表取締役の阿部俊幸氏には「枠にとらわれず生きる」というタイトルで講演をいただいた。

日 時：令和4年5月13日

場 所：オンライン

(3) SPI の模擬テストの実施

日 時：令和4年5月6日

場 所：1121教室

1年生と3年生に対してSPIの模擬テストを実施した。

(4) コンピテンシーテストの実施

日 時：令和4年4月29日

場 所：1121教室

1年生を対象に、電子情報工学特論の中で、自己分析を目的としたコンピテンシーテストを実施した。

(5) 電子情報産業論の実施

日 時：令和4年6月10日、6月17日、7月8日、7月15日

場 所：1111教室

2年生を対象に、電子情報基礎演習の4コマを使って、下記の企業から招いた講師による、電子通信産業、情報産業における最新の技術、トレンド、技術者としての仕事に関する講演を実施した。

（株）KDDI 総合研究所

日本電気通信システム（株）

福岡県情報サービス産業協会

アドバンテック株式会社

(6) 卒業論文（情報システムコース）の総合演習の実施

JABEEでは、異分野の人を含む他者と協働する能力の涵養を要請しており。それを受け例年、他学部・他学科の学生のゼミ形式での演習を実施する等の活動を行っていた。コロナ禍中の断絶により令和4年度も再開の目処が立たず、ゼミ形式での演習は見送り、令和3年度と同様、「専門性の異なる他者との協働の際に求められる能力や技能」の題目でレポート課題を課すこととした。

1.2.3.2 教育改善活動

令和4年度は授業改善検討会議（学科会議）において、以下のような項目について検討・改善を行った。

(1) 拡大学科会議の実施（令和4年4月6日、9月7日）

令和3年度後期より、実験等に携わる助教の意見を学科の施策に反映できるよう、助教も参加する拡大学科会議を実施することとなった。令和4年度は4月6日と9月7日の2回実施した。

(2) プログラミング演習IIにおける1154教室の利用と整備（令和4年5月11日）

プログラミング演習IIを開講しているPC教室に隣接する1154教室を、理解度の低い学生に対応するためにディスプレイ、白板、椅子を新規購入し、整備、使用することとした。

(3) 修学指導の実施（令和4年5月18日）

修学指導を対面、またはオンラインで実施すること、ならびに実施要領、対象者への通知文案を検討した。

(4) 実験機材の更新（令和4年5月18日、5月25日）

不足が見込まれる実験の計測機器（オシロスコープ、ファンクションジェネレータ）の購入、ならびに修理することとした。

(5) 3年生向けSPI模試の実施（令和4年6月8日）

Web上で3回受験できるSPI模試を用いることとし、初回を教室で一斉受験し、残り2回を学生に好きなときに受験させることとした。

(6) 3年生対象インターンシップの案内（令和4年6月29日）

3年生対象のインターンシップについては担当者（対外的な窓口、学生向けの広報）が明確でなかったため、就職担当教員がその役を担うこととし、学科のWebページにもその旨を記載した。

(7) 各科目の教授内容と必修・選択区分の変更（令和4年9月7日）

「電子情報工学実験」と教授内容を調整した結果、「計算機工学I」を全コース必修に変更した。また、ソフトウェア技術者が高位合成技術を用いてハードウェア設計をする機会が増えていることから、「デジタル電子回路」を情報系コースの学生が選択できるようにした。広く応用されるようになった深層学習を、「情報系のための確率・統計」、「音声情報処理工学」に加えて、「知識工学」においても取り扱うこととした。

(8) 学科就職ガイダンスの早期開催（令和4年10月5日）

ワンデーインターンシップに参加した3年生に早々に内々定を出すという、目に余る青田買い事例が共有・注意喚起されたため、これまで12月に開催していた就職ガイダンスを早め、11月16日に開催することにした。

(9) 授業中の急病人対応（令和4年10月26日）

授業中に学生が失神した事案が生じ、その際の初動や緊急連絡体制に関する懸念が出ていたが、当面、ものづくりセンターで採用されている方法に倣うこととなった。

(10) 副担任制の導入（令和5年3月1日）

来年度より全学年の学生に「副担任」をあて、学生からの相談を受け付けられる体制とすることにした。また、研究室配属後であっても副担任を外すことはせず、プレ卒・卒

論指導教員と副担任の両方に学生が相談できることとした。

(11) 定期的な面談の実施（令和 5 年 3 月 1 日）

これまで学生に対する面談は、成績不良等の学生に限って、年 1 回、6 月の就学指導で実施していたが、特に研究室配属前の 1 年生、2 年生については不登校等の問題を抱える学生が見落とされがちだった。そこで全学年の全学生に対して副担任による面談を実施していくこととした。1 年生については電子情報工学特論、2 年生については電子情報基礎演習の中で面談をすることとした。

(12) 新入生指導懇談会における学内見学ツアーの再開（令和 5 年 3 月 15 日）

コロナ禍で取りやめていた新入生指導懇談会における学内見学ツアーを来年度より再開することとした。

(13) JABEE 外部評価の実施（令和 5 年 3 月 17 日）

芝浦工業大学、九州大学、西部ガス情報システム（株）から外部評価委員を招き、JABEE で求められている外部評価を実施した。

1.2.3.3 学外研修等への参加状況報告

(1) 令和 4 年度大学電気系教員協議会総会・教育研究集会

主 催：大学電気系教員協議会

開催日：令和 4 年 9 月 20 日

場 所：オンライン

参加者：末次正

(2) 令和 4 年度理工系情報学科・専攻協議会 総会・研究会

主 催：理工系情報学科・専攻協議会

開催日：令和 4 年 7 月 23 日

場 所：オンライン

参加者：小野晋太郎

1.2.3.4 活動全般の成果および点検・評価

令和 4 年度は、全体的に、学生対応を強化する改善活動が行われた。これは、講義や演習で求められる障がいのある学生への配慮、コロナ禍下でのオンライン授業ではわからなかった対人面で不安を抱える学生への対応、受験者数の減少を見据えての学生向けのサービス強化が背景にある。

問題を抱えた学生については学科会議で情報共有し、授業や演習における対応のあり方を決めたり、従来のやり方を改善したりすることが行われた。これまで、何かしらの事情により講義や演習について来られない学生は、毎年 6 月に行われる就学指導においてのみ面談等のケアがされていたが、1 年に 1 回の機会では問題が大いに遅れて顕在化することが少なくなかった。学科会議での情報共有や議論を通して、研究室未配属のため問題が見えにく

い1年生、2年生に対する定期的な面談の必要性が認識されるようになり、学生ひとりひとりに入学から卒業まで相談先の教員を割り当てる「副担任」制度を設け、令和5年度から運用することが決まった。制度の効果が評価できるようになるまでには時間が必要であるが、副担任制度により、退学に向かう要因の早期の除去、ひいては中退率の低減を期待している。

令和4年度の間に、問題を抱えている学生本人と保護者、指導教員／副担任、学生課、HDセンター、工学部教務等のステークホルダとで対応を検討する態勢が相当に進展しており、今後は、これらステークホルダと学科会議、副担任制度との連携を高め、学生が在学中憂いなく就学し、しっかり卒業していけるような制度設計／改善を進めたい。

1.2.4 化学システム工学科

1.2.4.1 教育活動

令和4年度は、通常の教育活動に加えて、専門科目履修に向けた新入生の基礎学力確保、キャリア教育の充実などを目的として、以下に示す活動を実施した。

(1) リメディアル数学、数学演習クラス（1年生対象）

令和4年4月20日～7月13日 毎週水曜5限： 4月13日 5限に「高校数学の学力到達度調査」を実施し、学力別のクラス分けを行った。第1～11回では授業、第12回では期末試験を実施した。

(2) リメディアル物理

令和4年4月13日～7月20日 每週水曜2限： 第1回に「高校物理の学力到達度調査」を実施し、受講対象者を選抜した。第2～14回では授業を実施した。

令和4年7月8日 1限：1年生全員を対象として、到達度確認試験を実施した。

(3) 自分発見スタートセミナー（1、2年生対象）

日 時：令和4年4月6日 9:30～17:00

場 所：Zoomによるオンライン開催

内 容：新入生の不安軽減およびチームビルディングに関するセミナーを開催

(4) 化学工場見学（3年生希望者対象）

日 時：令和4年9月13日

場 所：UBE 株式会社 宇部工場地区

内 容：UBE 株式会社の展示コーナー、宇部ケミカルアンモニア工場等の見学

(5) 進路説明会（3年生対象）

日 時：令和4年10月21日 13:00～14:00 （「化学工学実験II」において実施）

場 所：1111教室

内 容：就職活動に対する心構え

　　大学院進学の説明

　　研究室仮配属の説明

　　質疑応答

(6) 先輩と語る（3年生対象）

日 時：令和4年11月25日 13:00～16:10（「化学工学実験II」において実施）

場 所：1111教室

内 容：（第一部）大学院生と化学システム工学科OBの講演

講演1：日本電気硝子株式会社 佐伯 篤志 氏（2018年度博士前期課程修了）

講演2：化学システム工学科博士前期課程2年 太田みなみ氏

学科就職担当者からの連絡

（第二部）各研究室の4年生・大学院生との懇談会

1.2.4.2 教育改善活動

令和4年度は、教育改善活動として、以下に示す活動を実施した。

(1) 教育改善会議

日 時：令和4年7月13日 16:00～16:30

場 所：Webexによるオンライン開催

内 容：令和3年度授業評価アンケートの集計結果を基に作成された授業改善シート

に基づく講義概況の報告（各科目担当の先生方）、および科目毎に問題点の抽出、来年度以降の授業改善方法に関する意見交換

(2) JABEEプログラム外部評価会議およびJABEEプログラム勉強会（学科教職員対象）

日 時：令和5年3月1日 15:00～16:00

場 所：644教室

内 容：本学科JABEEプログラムおよびカリキュラムの説明および外部講師によるご講演

外部講師 土橋晋作 氏（日本技術士会九州本部長崎県支部）による講演

質疑応答

1.2.4.3 学外研修等への参加状況報告

特記すべき事項なし。

1.2.4.4 活動全般の成果および点検・評価

リメディアル科目は、専門科目履修に向けた新入生の基礎学力確保を目的として、例年実施している。令和4年度も原則前年度と同様の内容にて実施した。従来行われていた新入生合宿研修会は中止し、その代わりに自分発見スタートセミナーを実施し、学生同士の交流の場を提供した。また、当該セミナーは、新入生に加え、コロナ禍の影響で学生間の交流が少ないと思われる2年生も対象とした。

キャリア教育の充実を図るために3年生対象の説明会および教職員を対象とした教育改善活動の多くは、基本的にはコロナ禍前の形式に戻し、数年ぶりに対面で1つの教室にて実施することができた。3年生対象の説明会では、OBや大学院生の就職活動に係る体験談を

聴講し、学生はキャリアデザインの重要性を深く認識したようである。また、教職員は、JABEE プログラム勉強会における講演とその後のディスカッションを通じて、将来の教育方法や PDCA を「持続的・継続的」に回すことの重要性に関して再認識した。

1.2.5 社会デザイン工学科

1.2.5.1 教育活動

(1) 「社会デザイン工学科チーム力養成ゼミ」の実施

チームワーク力の育成のために4年生全員を対象としてチーム力養成講座を実施した。学部講義で得た知識、技術、技能や所属研究室の学術分野の知識を融合し、社会デザイン工学的解決策をチームで導き出す。そのために必要なコミュニケーション研修を目的とし、1) コミュニケーションが必要な時代背景を知る、2) チームとチームワークの考え方を知る、3) 相手を認めるなどを学ぶ、4) 表現のコツを知るといった講義内容を踏まえ、演習を含めた実践的講義を実施した。またフォローアップとして令和5年2月20日（月）のJABEE会議にて、本講座の振り返りを各研究室で行い、全体共有を行った。

・実施スケジュール

令和4年4月8日 第1回目 概要説明、講義 @521教室

令和4年5月20日 第2回目 演習を含めた実践的講義 @中央図書館多目的ホール

(2) インターンシップの実施

3年次開講科目「キャリアデザイン」（必修科目）の一環として、インターンシップの参加を単位取得の必須条件としていたが、昨年度と同様に2022年度も参加推奨に切り替えた。コロナ禍ということもあったが、大半の学生はインターンシップ参加を希望し、準備を進めていた。9月12日（月）に有志の参加でインターンシップ報告会を行った。

1.2.5.2 教育改善活動

(1) 修学指導対象学生の検討

修学指導対象基準に該当しない学生について、副担任が指導が必要と判断した学生も修学指導を実施することが確認された。

(2) シラバス読み合わせの実施（令和5年1月12～20日）

令和5年度のシラバスについて、到達目標、授業計画のチェックを目的とした学科教員全員による読み合わせが実施された。FU_boxに各科目のシラバスを保存し、確認担当者を決めて期限（1月20日）までにチェックシートに記載する形で実施された。

1.2.5.3 学外研修等への参加状況報告

特記すべき事項なし。

1.2.5.4 活動全般の成果および点検・評価

今年度は対面授業の本格化にともない、学生と教員間の情報共有やコミュニケーションの促進がみられ、従来型の教育・指導方法による教育効果が得られたものと考えている。チーム力養成講座についても、チームビルディングのために必要なコミュニケーションスキルの解説と習得に一定の成果が認められた。しかし、その後のグループワークについての実践的な効果検証においては、学科教員間の認識も様々であったことから、今後も効果の点検方法等について継続検討していきたい。

1.2.6 建築学科

1.2.6.1 教育活動

(1) 新入生履修ガイダンス、新入生指導懇談会および新入生研修旅行

令和4年4月2日（土）に新入生履修ガイダンスを、4月8日（金）に新入生指導懇談会を行った。また、新入生間の親睦・教員との交流と、身近な建築物の見学を通して、建築への興味を深め、建築を観る目を養うことを目的に、新入生フィールド研修を4月23日（土）に行った。

(2) SPI の模擬テスト

1年生を対象にSPIの模擬試験およびコンピテンシー試験を行った。

(3) アドバイザー訪問

実施日：1年生：4月18日～22日、9月26日～10月1日、3月17日～3月30日

2・3・4年生：9月26日～10月1日、3月17日～3月30日

実施内容：アドバイザー担当教員が個別面談を対面もしくはオンラインで実施した。

(4) 建築学科キャリアセミナーの実施

就職活動を始める3年生を対象に、令和4年11月9日（水）、16日（水）、30日（水）、12月7日（水）の4日間の期間でキャリアセミナーを実施した。キャリアセミナーに参加いただいた建築関係の各企業について、事前に企業説明の動画（5分）で学習した上で、各企業のブースを設けて個別相談や質疑応答を行った。

1.2.6.2 教育改善活動

(1) 建築学科 JABEE 委員会

開催日：令和5年1月13日（金）・1月17日（水）の計2回開催

内 容：新カリキュラムに向けた2023年度以降入学生のJABEE認定の継続の可否について協議した。また、DPに合わせた建築学科の学習到達目標の設定について検討を行った。

(2) 修学指導

成績がふるわない学生（2～4年生）を対象に5月～6月の間で修学指導を行った。

(3) 推薦合格者の入学前教育の実施

入学前教育として推薦合格者に課題を課し、提出された課題内容を教員でチェックした。

(4) 福岡大学建築展

福岡大学建築展 2023（第16回）

開催日：令和5年2月17日（金）～2月19日（日）

会場：アクロス福岡1階アトリウム

内容：設計展示として、卒業計画の優秀作品（七隈建築賞・福岡県建築士会賞、彗揚会賞、優秀賞、佳作等）、3年生の設計課題を展示了。

また、論文展示として、日本コンクリート工学会九州支部長賞、空気調和・衛生工学会振興賞学生賞、都市住宅学会九州支部優秀学生賞等受賞論文を含む、各研究室で選出された論文を展示了。

(5) 設計計画系ミーティングおよび講義研究会

開催日：令和4年4月8日（金）・5月11日（水）・6月15日（水）・7月13日（水）・

8月3日（水）・8月17日（水）・令和5年2月14日（火）・3月14日（火）の計8回開催

(6) 構造系講義検討WGおよび構造系講義研究会

開催日：令和4年9月22日（木）午前「構造力学系科目」、同日午後「建築総合実験」、

令和5年3月15日（水）の計3回開催

(7) 外部評価会議

1) 卒業計画優秀作品選考会の実施

日時：令和4年1月22日（土）13:00～17:50

場所：5号館 541 製図室

参加者：日時：令和5年1月21日（土）13:00～17:50

場所：5号館 541 製図室およびオンライン会議室

参加者：外部評価委員（8名）鮎川 透氏（環・設計工房 本学非常勤講師）、井出健一郎（リズムデザイン 本学非常勤講師）、黒瀬 重幸氏（福岡大学名誉教授 本学非常勤講師）、佐々木 翔（INTERMEDIA 本学非常勤講師）、佐藤 真紀（佐藤真紀&FUN 建築設計事務所 本学非常勤講師）、田中 俊彰氏（田中俊彰設計室 本学非常勤講師）、田中 康裕氏（キャディスと風建築工房 本学非常勤講師）、松山 将勝（松山建築設計室 本学非常勤講師）、教員（7名）池添 昌幸、太記 祐一、趙 翔、宮崎 慎也、四ヶ所 高志、野口 雄太、野田 りさ、松永 一郎、奈尾信英、学部4年次生、大学院生

内容：建築学科の開講科目「卒業計画」（4年生通年必修）の優秀作品選考会の審査

員として、8名の外部評価委員を招聘した。「卒業計画」では、学生が研究室に所属して行った研究成果を論文か設計作品にまとめ発表し、その設計作品の中から学内の教員が高く評価した12作品について、学生のプレゼンテーション、図面、模型、などを、それぞれ検討・評価をして頂いた。そして学内の教員も交え、12作品全体について意見交換を行い、特に優秀な作品の選考を行った。一連の作業を通して、実際に建築設計の実務に携わっている現役の専門家から、様々な意見を聴取することができ、「卒業計画」の教育効果を検証する手がかりを得るとともに、学部における設計教育全体の方針を再検討するための重要な知見を得ることができた。

2) 建築の構造デザインに関する講演会の実施

日 時：令和4年8月4日（土）15:00～17:00

場 所：4号館1階多目的ホール

参加者：外部評価委員（1名）尾宮 洋一氏（ワنس構造設計事務所）、教員（6名）
堺 純一、吉澤 幹夫、田中 照久、倉富 洋、劉 懲、楠本 彩七、学部4年生
21名、3年生5名、大学院生4名

内 容：建築学科で開講している卒業計画（4年生）および構造系専門関連科目（3年生）において、建築構造の設計・施工に詳しい尾宮氏に構造デザインの具体的な実例を学生・教員に紹介して頂き、設計技術等に関する課題の設定方針の参考となる知見を得ることができた。また、建築構造の技術開発に関するテーマ設定や進め方などを中心に、建築学科の構造設計教育について評価を頂いた。

1.2.6.3 学外研修等への参加状況報告

(1) JABEE 建築分野審査・受審セミナー

主催：日本建築学会 建築分野審査委員会

開催日：令和5年3月8日(水)

場所：Zoom オンライン

参加者：池添昌幸

1.2.6.4 活動全般の成果および点検・評価

令和4年度も、教室会議と学科内教務委員会において、講義・演習や卒業計画等の授業科目、修学指導の関連行事について継続的に検討し、教育改善を継続的に実行している。

専門科目のシラバスは、分野の近い教員が分担して相互にチェックし、その後、学科主任が全体調整を行い、改善すべき点があれば指摘するなど、相互点検と改善を行っている。

また、キャリアデザイン教育の充実を図るために3年次生を対象として「キャリアセミナー」を実施するなど、継続的に点検・評価を行っている。

上記の活動項目のほかにも、福岡工業高校等の高校教育への貢献、イヤーブックを用いた
教育成果の情報発信などを実施し、教育改善の成果を上げている。

第2章 大学院工学研究科の教育活動

2.1 入試状況

推薦、秋季、春季入学試験の過去5年間における各専攻の受験者数と合格者数を示す。

課程・専攻	入学年度 (実施年度)	推薦		秋季		春季		合計	
		志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数
機 械 工 学	2023(R4)	8	8	6	4	3	3	17	15
	2022(R3)	7	7	5	5	0	-	12	12
	2021(R2)	10	10	6	3	4	2	20	15
	2020(R1)	5	5	2	2	1	1	8	8
	2019(H30)	3	3	0	-	0	-	3	3
電 気 工 学	2023(R4)	4	4	1	1	2	2	7	7
	2022(R3)	10	10	3	2	2	1	15	13
	2021(R2)	8	8	6	5	3	2	17	15
	2020(R1)	4	3	5	1	4	3	13	7
	2019(H30)	5	5	4	4	1	1	10	10
博士課程前期	2022(R4)	7	7	5	4	5	4	17	15
	2022(R3)	4	4	11	10	2	1	17	15
	2021(R2)	5	5	8	7	3	1	16	13
	2020(R1)	1	1	6	6	2	1	9	8
	2019(H30)	4	4	8	7	2	1	14	12
化学システム工学	2023(R4)	17	17	26	24	4	3	47	44
	2022(R3)	12	12	2	2	0	-	14	14
	2021(R2)	17	17	4	3	3	3	24	23
	2020(R1)	13	12	8	7	7	7	28	26
	2019(H30)	5	5	10	9	3	3	18	17
建 設 工 学	2023(R4)	10	10	16	14	5	4	31	28
	2022(R3)	3	3	9	8	4	3	16	14
	2021(R2)	5	5	12	12	2	1	19	18
	2020(R1)	3	3	7	5	6	4	16	12
	2019(H30)	3	3	13	12	8	7	24	22
修士課程	資源循環・環境工学	2023(R4)	0	-	0	-	2	2	2
		2022(R3)	0	-	3	1	3	3	4
		2021(R2)	1	1	1	1	3	2	5
		2020(R1)	4	4	2	2	2	2	8
		2019(H30)	2	2	2	2	1	1	5
博士課程後期	エネルギー・環境システム工学	2023(R4)			3	3	3	6	6
		2022(R3)			1	1	1	2	2
		2021(R2)			1	1	2	3	3
		2020(R1)			1	1	2	3	3
		2019(H30)			0	-	1	1	1
	情報・制御システム工学	2023(R4)			0	-	0	0	0
		2022(R3)			1	1	1	2	2
		2021(R2)			1	1	0	1	1
		2020(R1)			1	1	0	1	1
		2019(H30)			1	1	1	2	2

2.2 学生在籍状況

令和4年度 工学研究科在籍者数一覧

(令和4年5月1日現在)

課程 専攻	年次	学年 (入学年)	博士課程前期(修士課程)			博士課程後期				合計
			1年 (2021)	2年 (2020)	3年以上 (2019以前)	1年 (2021)	2年 (2020)	3年 (2019)	4年以上 (2018以前)	
機 械 工 学	女子 休学 在籍	(0) 12	(0) 15	(0) 0						(0) 0 27
電 気 工 学	女子 休学 在籍	(0) 12	(0) 15	(0) 0						(0) 0 27
電 子 情 報 工 学	女子 休学 在籍	(0) 13	(0) 11	(0) 0						(0) 0 24
化 学 シス テ ム 工 学	女子 休学 在籍	(2) 12	(4) 19	(0) 1						(6) 0 32
建 設 工 学	女子 休学 在籍	(3) 14	(5) 17	(1) 1						(9) 1 32
資 源 循 環・環 境 工 学	女子 休学 在籍	(1) 4	(1) 3	(0) 0						(2) 0 7
博士課程前期・修士課程 合 計	女子 休学 在籍	(6) 0 67	(10) 1 80	(1) 0 2						(17) 1 149
エネルギー・環境システム 工 学	女子 休学 在籍				(0) 2	(1) 3	(0) 3	(1) 2		(2) 0 10
情 報・制 御 シス テ ム 工 学	女子 休学 在籍				(0) 2	(0) 1	(0) 1	(0) 1		(0) 0 5
博 士 課 程 後 期 合 計	女子 休学 在籍				(0) 0 4	(1) 0 4	(0) 0 4	(1) 0 3		(2) 0 15

令和4年度 工学研究科外国人留学生、社会人学生、研究生等在籍者数

(令和4年5月1日現在)

課程・専攻 分類	博士課程前期・修士課程							博士課程後期		工 学 研 究 科 合 計
	機 械 工 学	電 気 工 学	電 子 情 報 工 学	化 学 シ ス テ ム 工 学	建 設 工 学	環 資 源 境 循 工 環 学 ・	環 工 境 ネ シ ス ル テ ギ ム ー 工 学 ・	シ 情 ス 報 テ ム 制 工 学 御		
外 国 人 留 学 生					1	4	1	2	8	
外 国 人 特 別 留 学 生									0	
社会人学生					1		8	1	10	
研 究 生									0	
科 目 等 履 修 生									0	

2.3 学年暦

令和4年度 工学研究科学年暦・行事暦

年月日				事 項		
4	4 1	金 1 新入生ガイダンス・学習指導	入学式/学年開始・前期開始	4 10 12 1 2 2 2 2 3 3	6 木 31 月 5 月 9 金 27 火 4 水 5 木 16 月 23 月 26 木 9 木 14 火 3 金 6 月 16 木 19 日 28 火 28 木 4 木 16 火 31 水 13 火 14 水 16 金 19 月 20 火 24 土	秋季大学院学位記授与式(博士)
			新入生履修登録開始(～4日12:00迄)		外国人留学生(国外志願者)入学願書締切	
			TA申込締切(12:00迄)		個別の入学資格審査対象者・外国人(国内志願者)の入学願書受付開始(～7日迄)	
	7 11	月 月 前期授業開始	推薦入学願書受付開始(～15日迄)		工学研究科大学院進学説明会(3年次生対象)	
			推薦入学試験(工学研究科)		冬季休業開始	
			個別の入学資格審査対象者・外国人(国内志願者)の入学願書受付開始(～13日迄)		冬季休業終了	
	8 19	火 火 推薦入学合格発表	推薦入学合格発表		後期授業再開	
			前期授業終了		春季入学試験願書受付開始(～19日迄)	
			夏季休業開始		後期授業終了	
9	8 16	木 火 秋季入学試験願書受付開始(～18日迄)	秋季入学試験願書受付開始(～18日迄)		大学院研究生出願受付開始(～31日迄)	
			秋季入学試験(工学研究科)		飛び級願書受付開始(～10日迄)	
			夏季休業終了		春季入学試験(工学研究科)	
	9 13	火 火 後期開始	後期開始		修士・博士学位合格者発表	
			夏季休業終了		修士論文製本原稿提出受付開始(～6日迄)	
			修士・博士学位前期合格者発表		Web成績発表	
	9 16	金 金 Web成績発表(前期完結科目のみ)	Web成績発表(前期完結科目のみ)		春季入学試験合格発表	
			後期授業開始		春季大学院学位記授与式(博士)	
			秋季入学試験合格発表		卒業式・学位記授与式(修士)	
	9 24	土 土 前期卒業式・学位記授与式(修士)	前期卒業式・学位記授与式(修士)		在学生履修登録書類配付・履修登録開始(～31日迄)	
					学年終了	

2.4 専門科目一覧

【機械工学専攻 博士課程前期】令和4年度入学生(22名)

主要科目			特修科目		
部門	授業科目	単位数	部門	授業科目	単位数
材料力学専修	材料力学特別研究	8	非 專 修	破壊力学	2
	材料力学特論Ⅰ	2		応用数学特論Ⅰ	2
	材料力学特論Ⅱ	2		応用数学特論Ⅱ	2
流体工学専修	流体工学特別研究	8		応用物理学特論Ⅰ	2
	流体力学特論	2		応用物理学特論Ⅱ	2
	流体機械特論	2		解析力学	2
熱工学専修	熱工学特別研究	8		応用力学特別講義	2
	熱工学特論	2		エネルギー工学特別講義	2
	熱機関特論	2		設計工学特別講義	2
機械設計・工 作法専修	機械設計・工作法特別研究	8			
	機械設計特論	2			
	工作法特論	2			
機械力学・制 御専修	機械力学・制御特別研究	8			
	機械力学特論	2			
	機械制御特論	2			

【電気工学専攻 博士課程前期】令和4年度入学生(22台)

主要科目			特修科目		
部門	授業科目	単位数	部門	授業科目	単位数
電気基礎 専修	電気基礎特別研究	6	非 専 修	応用数学特論	2
	電気基礎特別実験	4		応用物理学特論	2
	電気基礎特論 I	4		電磁解析特論	2
	電気基礎特論 II	4		電気回路特論	2
パワーエレ クトロニクス 専修	パワーエレクトロニクス特別研究	6	非 専 修	放電プラズマ特論	2
	パワーエレクトロニクス特別実験	4		電気絶縁特論	2
	パワーエレクトロニクス特論 I	4		自動制御特論	2
	パワーエレクトロニクス特論 II	4		環境電気特論	2
電力工学 専修	電力工学特別研究	6	非 専 修	パルス・デジタル応用特論	2
	電力工学特別実験	4		電気機器応用特論	2
	電力工学特論 I	4		信号解析特論	2
	電力工学特論 II	4		電気エネルギー・システム特論 I	2
応用電気 工学専修	応用電気工学特別研究	6		電気エネルギー・システム特論 II	2
	応用電気工学特別実験	4			
	応用電気工学特論 I	4			
	応用電気工学特論 II	4			

【電子情報工学専攻 博士課程前期】令和4年度入学生(22台)

主要科目			共通科目	
部門	授業科目	単位数	授業科目	単位数
集積回路専修	集積回路特別研究 I	4	応用数学特論 I	2
	集積回路特別研究 II	6	応用数学特論 II	2
	半導体工学特論	2	電子情報工学特別講義 I	2
	集積回路工学特論	2	電子情報工学特別講義 II	2
	電子回路設計特論	2	技術マネージメント特論	2
	固体電子回路特論	2	システム開発特別演習	2
	応用物理学特論	2	ITプロジェクト管理特論	2
通信システム専修	通信システム特別研究 I	4	システム開発特別実習	2
	通信システム特別研究 II	6	プロジェクト型開発特別演習・実習	4
	移動通信システム特論	2		
	通信工学特論	2		
オプトエレクトロニクス専修	オプトエレクトロニクス特別研究 I	4		
	オプトエレクトロニクス特別研究 II	6		
	光エレクトロニクス特論 I	2		
	光エレクトロニクス特論 II	2		
計算機システム専修	計算機システム特別研究 I	4		
	計算機システム特別研究 II	6		
	計算機工学特論 I	2		
	計算機工学特論 II	2		
情報アーキテクチャ専修	情報アーキテクチャ特別研究 I	4		
	情報アーキテクチャ特別研究 II	6		
	ネットワークシステム特論	2		
	ロボティクス特論 I	2		
	ロボティクス特論 II	2		
知能工学専修	知能工学特別研究 I	4		
	知能工学特別研究 II	6		
	言語工学特論	2		
	情報論理学特論	2		
情報システム開発工学専修	情報システム開発工学特別研究 I	4		
	情報システム開発工学特別研究 II	6		
	システム・ソフトウェア工学特論	2		
	情報ネットワーク特論	2		
	情報セキュリティ特論	2		
メディア工学専修	メディア工学特別研究 I	4		
	メディア工学特別研究 II	6		
	音声情報処理特論	2		
	画像情報処理特論	2		

【化学システム工学専攻 博士課程前期】令和4年度入学生(22名)

主要科目			特修科目		
部門	授業科目	単位数	部門	授業科目	単位数
プロセスシステム工学専修	プロセスシステム工学特別研究	6	非 專 修	化学プロセス特論	2
	プロセスシステム工学特別実験	4		プロセス設計特論	2
	プロセスシステム工学特論	4		プロセス制御特論	2
複合材料専修	複合材料特別研究	6		バイオマス変換工学特論	2
	複合材料特別実験	4		エネルギー物質化学特論	2
	複合材料特論	4		高分子化学特論	2
界面プロセス工学専修	界面プロセス工学特別研究	6		輸送現象特論	2
	界面プロセス工学特別実験	4		界面プロセス工学特論	2
	物質移動工学特論	4		無機機能材料特論	2
移動現象工学専修	移動現象工学特別研究	6		触媒工学特論	2
	移動現象工学特別実験	4		流体工学特論	2
	移動現象工学特論	4		伝熱工学特論	2
応用触媒化学専修	応用触媒化学特別研究	6		環境工学特論	2
	応用触媒化学特別実験	4		環境物理学特論	2
	応用触媒化学特論	4		応用数学特論 I	2
化工流体工学専修	化工流体工学特別研究	6		応用数学特論 II	2
	化工流体工学特別実験	4		応用物理学特論 I	2
	化工流体工学特論	4		応用物理学特論 II	2
反応工学専修	反応工学特別研究	6		化学工学特論 I	1
	反応工学特別実験	4		化学工学特論 II	1
	反応工学特論	4		化学工学特論 III	1
化学安全工学専修	化学安全工学特別研究	6		化学工学特論 IV	1
	化学安全工学特別実験	4		英語論作文スキル特論 I	2
	化学安全工学特論	4		英語論作文スキル特論 II	2
工業化学・高分子専修	工業化学・高分子特別研究	6			
	工業化学・高分子特別実験	4			
	工業化学・高分子特論	4			
工業無機化学専修	工業無機化学特別研究	6			
	工業無機化学特別実験	4			
	工業無機化学特論	4			

【建設工学専攻 博士課程前期】令和4年度入学生(22名)

【資源循環・環境工学専攻 修士課程】令和4年度入学生(22名)

主要科目			特修科目		
部門	授業科目	単位数	授業科目	単位数	
資源循環工学専修	資源循環工学特別研究	8	耐久性制御工学特論	2	
	資源循環工学特別実験・実習	4	材料特性特論	2	
環境化学制御専修	環境化学制御特別研究	8	資源循環型経済システム特論	2	
	環境化学制御特別実験・実習	4	廃棄物管理システム特論	2	
環境生態制御専修	環境生態制御特別研究	8	グリーン物流計画特論	2	
	環境生態制御特別実験・実習	4	汚染物質処理特論	2	
地域環境専修	地域環境特別研究	8	環境化学装置特論	2	
	地域環境特別実験・実習	4	環境化学特論	2	
環境マネジメント専修	環境マネジメント特別研究	8	水質管理システム特論	2	
	環境マネジメント特別実習	4	エネルギー変換工学特論	2	
東アジア文化環境専修	東アジア文化環境特別研究	8	廃棄物資源循環工学特論	2	
	東アジア文化環境特別実習	4	環境微生物工学特論	2	
共通必修科目			水圏生態学特論	2	
授業科目			土壤生態学特論	2	
資源循環総合演習			環境アセスメント特論	2	
実践的環境教育総合実習 I			環境調和型都市計画特論	2	
英語論作文スキル特論 I			国際環境計画特論	2	
英語論作文スキル特論 II			環境法特論	2	
実践的環境教育総合実習 II			環境情報学特論	2	
共通選択科目			コミュニケーションスキル特論	2	
授業科目			環境データ解析特論	2	
資源循環総合演習			環境行政学特論	2	
実践的環境教育総合実習 I			環境物理学特論	2	
英語論作文スキル特論 II			中国文化環境特論	2	
実践的環境教育総合実習 II			韓国朝鮮文化環境特論	2	
英語論作文スキル特論 I			環境監査特論 I	2	
英語論作文スキル特論 II			環境監査特論 II	2	

【エネルギー・環境システム工学専攻 博士課程後期】令和4年度入学生(22名)

研究指導科目			特修科目	
部門	授業科目	単位数	授業科目	単位数
熱エネルギー工学専修	熱エネルギー工学特別研究Ⅰ	2	応用エネルギー特論	2
	熱エネルギー工学特別研究Ⅱ	2	熱エネルギー移動現象特論	2
	熱エネルギー工学特別研究Ⅲ	2	電力システム工学特論A	2
	熱エネルギー工学特別研究Ⅳ	2	電力システム工学特論B	2
	熱エネルギー工学特別演習Ⅰ	2	誘電体物性工学特論	2
	熱エネルギー工学特別演習Ⅱ	2	都市排水処理工学特論	2
電気エネルギー工学専修	電気エネルギー工学特別研究Ⅰ	2	再生資源利用工学特論	2
	電気エネルギー工学特別研究Ⅱ	2	建築環境システム特論	2
	電気エネルギー工学特別研究Ⅲ	2	都市計画特論	2
	電気エネルギー工学特別研究Ⅳ	2	免震・制震設計特論	2
	電気エネルギー工学特別演習Ⅰ	2	地盤防災学特論	2
	電気エネルギー工学特別演習Ⅱ	2	建築計画特論	2
都市環境工学専修	都市環境工学特別研究Ⅰ	2	舗装・地盤環境工学特論	2
	都市環境工学特別研究Ⅱ	2	構造工学特論	2
	都市環境工学特別研究Ⅲ	2	橋梁工学特論	2
	都市環境工学特別研究Ⅳ	2	交通・都市システム特論	2
	都市環境工学特別演習Ⅰ	2	建築生産工学特論	2
	都市環境工学特別演習Ⅱ	2	耐震工学特論	2
環境材料工学専修	環境材料工学特別研究Ⅰ	2	景観デザイン特論	2
	環境材料工学特別研究Ⅱ	2	住環境デザイン特論	2
	環境材料工学特別研究Ⅲ	2	材料強度学特論	2
	環境材料工学特別研究Ⅳ	2	生体材料学特論	2
	環境材料工学特別演習Ⅰ	2	構造材料工学特論	2
	環境材料工学特別演習Ⅱ	2	高分子材料工学特論	2
環境プロセス工学専修	環境プロセス工学特別研究Ⅰ	2	材料強度解析特論	2
	環境プロセス工学特別研究Ⅱ	2	機械材料学特論	2
	環境プロセス工学特別研究Ⅲ	2	界面コロイド工学特論	2
	環境プロセス工学特別研究Ⅳ	2	環境装置工学特論	2
	環境プロセス工学特別演習Ⅰ	2	環境分離工学特論	2
	環境プロセス工学特別演習Ⅱ	2	環境適合化学プロセス特論	2
資源循環システム工学専修	資源循環システム工学特別研究Ⅰ	2	生物材料工学特論	2
	資源循環システム工学特別研究Ⅱ	2	環境工学特論	2
	資源循環システム工学特別研究Ⅲ	2	環境触媒特論	2
	資源循環システム工学特別研究Ⅳ	2	廃棄物処理工学特論	2
	資源循環システム工学特別演習Ⅰ	2	廃棄物処分システム特論	2
	資源循環システム工学特別演習Ⅱ	2	建設廃棄物処理特論	2
部門共通	インターンシップ	2		

【情報・制御システム工学専攻 博士課程後期】令和4年度入学生(22名)

研究指導科目			特修科目	
部門	授業科目	単位数	授業科目	単位数
情報処理工学 専修	情報処理工学特別研究 I	2	言語工学特論A	2
	情報処理工学特別研究 II	2	言語工学特論B	2
	情報処理工学特別研究 III	2	知能処理特論A	2
	情報処理工学特別研究 IV	2	知能処理特論B	2
	情報処理工学特別演習 I	2	知能処理特論C	2
	情報処理工学特別演習 II	2	情報処理工学特論A	2
情報伝送工学 専修	情報伝送工学特別研究 I	2	情報処理工学特論B	2
	情報伝送工学特別研究 II	2	情報処理工学特論C	2
	情報伝送工学特別研究 III	2	情報処理工学特論D	2
	情報伝送工学特別研究 IV	2	伝送素子特論	2
	情報伝送工学特別演習 I	2	情報伝送工学特論A	2
	情報伝送工学特別演習 II	2	情報伝送工学特論B	2
システム制御 工学専修	システム制御工学特別研究 I	2	情報伝送工学特論C	2
	システム制御工学特別研究 II	2	情報伝送工学特論D	2
	システム制御工学特別研究 III	2	パワーエレクトロニクス特論A	2
	システム制御工学特別研究 IV	2	パワーエレクトロニクス特論B	2
	システム制御工学特別演習 I	2	機械システム制御特論A	2
	システム制御工学特別演習 II	2	機械システム制御特論B	2
機能デバイス 工学専修	機能デバイス工学特別研究 I	2	機械システム制御特論C	2
	機能デバイス工学特別研究 II	2	機能デバイス工学特論A	2
	機能デバイス工学特別研究 III	2	機能デバイス工学特論B	2
	機能デバイス工学特別研究 IV	2	機能デバイス工学特論C	2
	機能デバイス工学特別演習 I	2	機能デバイス工学特論D	2
	機能デバイス工学特別演習 II	2	デバイス材料工学特論	2
部門共通	インターナシップ	2		

【博士課程後期における学際プログラム】令和4年度入学生(22台)

部門	研究指導科目		特修科目	
	授業科目	単位数	授業科目	単位数
アグリシステム工学プログラム	バイオマス利用工学特別研究Ⅰ	2	発酵工学特論	2
	バイオマス利用工学特別研究Ⅱ	2	環境プロセス工学特論	2
	バイオマス利用工学特別研究Ⅲ	2	バイオマテリアル特論	2
	バイオマス利用工学特別研究Ⅳ	2	アグリプロセス特論	2
	バイオマス利用工学特別演習Ⅰ	2	スマートアグリ特論	2
	バイオマス利用工学特別演習Ⅱ	2	アグリビジネス特論	2
	アグリプロセス工学特別研究Ⅰ	2		
	アグリプロセス工学特別研究Ⅱ	2		
	アグリプロセス工学特別研究Ⅲ	2		
	アグリプロセス工学特別研究Ⅳ	2		
	アグリプロセス工学特別演習Ⅰ	2		
	アグリプロセス工学特別演習Ⅱ	2		
	スマートアグリ特別研究Ⅰ	2		
	スマートアグリ特別研究Ⅱ	2		
	スマートアグリ特別研究Ⅲ	2		
都市建設工学プログラム	スマートアグリ特別研究Ⅳ	2		
	スマートアグリ特別演習Ⅰ	2		
	スマートアグリ特別演習Ⅱ	2		
	建築耐震工学特別研究Ⅰ	2	建築耐震性能評価特論	2
	建築耐震工学特別研究Ⅱ	2	道路地盤保全システム特論	2
	建築耐震工学特別研究Ⅲ	2	建築免震・制震性能評価特論	2
	建築耐震工学特別研究Ⅳ	2	都市基盤保全システム特論	2
	建築耐震工学特別演習Ⅰ	2	都市交通政策特論	2
	建築耐震工学特別演習Ⅱ	2	都市環境情報システム特論	2
	道路地盤保全システム工学特別研究Ⅰ	2		
	道路地盤保全システム工学特別研究Ⅱ	2		
	道路地盤保全システム工学特別研究Ⅲ	2		
	道路地盤保全システム工学特別研究Ⅳ	2		
	道路地盤保全システム工学特別演習Ⅰ	2		
	道路地盤保全システム工学特別演習Ⅱ	2		
	建築免震・制震設計特別研究Ⅰ	2		
	建築免震・制震設計特別研究Ⅱ	2		
	建築免震・制震設計特別研究Ⅲ	2		
	建築免震・制震設計特別研究Ⅳ	2		
	建築免震・制震設計特別演習Ⅰ	2		
	建築免震・制震設計特別演習Ⅱ	2		
	維持管理システム工学特別研究Ⅰ	2		
	維持管理システム工学特別研究Ⅱ	2		
	維持管理システム工学特別研究Ⅲ	2		
	維持管理システム工学特別研究Ⅳ	2		
	維持管理システム工学特別演習Ⅰ	2		
	維持管理システム工学特別演習Ⅱ	2		
共通科目				
授業科目			単位数	
インターナシップ			2	
公共政策学特論			2	
経済マネジメント特論			2	
防災通信特論			2	

2.5 修士論文と博士論文、学生が受賞した学術賞

2.5.1 修士論文

令和4年度 修士論文論題及び審査委員一覧

専攻	主査	副査	論題
機械工学 ～ 15名	岩村	柳瀬	マルチボディダイナミクスによる電動リクライニング車椅子の褥瘡予防機構の開発
	稻毛	宮田	ルイス数の影響を考慮した層流及び乱流に適応できる燃焼モデルの開発に関する研究
	高尾	稻毛	直交型クーリングタワー内における伝熱流動特性に関する数値シミュレーション
	岩村	柳瀬	マルチボディダイナミクスと機械学習を用いた自動車乗員モデルの開発と人・車両間相互作用力の推定
	高尾	安東	振動式密度計を用いた低GWP冷媒の液相密度測定
	高尾	安東	水平矩形ミニチャンネルを低質量速度で流れる冷媒の凝縮蒸発流動伝熱特性
	岩村	柳瀬	物理的に結合された複数台ドローンのマルチボディダイナミクス解析と実験による検証
	山辺	遠藤	粒界硫黄偏析量を変化させた純ニッケルの水素脆化挙動とそれに及ぼす環境因子の影響
	高尾	林	赤外高速度カメラによるライデンフロスト現象の液滴挙動観察
	稻毛	山辺	SDGsにおけるエネルギー、食糧、教育に関する研究
	高尾	林	高温高圧状態における水電解による水素ガス生成に関する検討
	岩村	山辺	動作軌道最適化による柔軟マルチボディシステムの残留振動抑制
	岩村	宮田	マルチボディシステムの汎用的な力制御手法の開発
	岩村	遠藤	粘弾性体を含むマルチボディシステムの高速かつ安定な動力学計算法と力学パラメータ同定手法の検討
	岩村	遠藤	時空間分離に基づくマルチボディシステムの最適軌道生成とそのゴルフスイング最適化への応用
電気工学 ～ 15名	西田	孟	改良型スパッタリング法での粒子の入射条件がPbTiO ₃ ナノ結晶成長に与える影響
	西田	孟	短テラス基板における改良型スパッタリング法を用いたPbTiO ₃ ナノ結晶の育成
	根葉	小浜	電流形コンバータを用いた無効電力補償システムに関する研究
	小浜	住吉谷	電力用可変容量コンデンサとその共振コンバータへの応用に関する研究
	篠原	花井	大気圧放電中の電界推定に関する研究
	孟	西田	AIを利用した電磁散乱波形の識別によるコンクリート中の空隙検出に関する基礎検討
	西田	孟	ブラインド型スパッタリング法による超平坦Ptナノシート電極膜の導電性評価
	根葉	辻	PWMインバータ駆動誘導機の電磁音に関する研究
	花井	篠原	密閉容器内における窒素ファインバブル付加純水の絶縁特性に関する研究
	篠原	西田	アセチレンプラズマによるアモルファス炭素膜堆積における反応解析に関する研究
	孟	西田	妨害電波がある場合の電磁界観測データから入射波を抽出する技術

専攻	主査	副査	論題
電気工学	根葉	辻	三相デュアル電流形インバータによる誘導機制御に関する研究
	花井	篠原	窒素ファインバブル付加パームヤシ脂肪酸エステルの電気的特性に関する研究
	根葉	小浜	電流形インバータによる系統電圧補償システムに関する研究
	西田	篠原	改良型スパッタリング法におけるガス条件制御とPtナノ粒子の成長メカニズムの解析
電子情報工学 ～ 11名	吉村	中西	日本語複文の構文解析と単文分解の融合に関する研究
	太郎丸	大橋	強化学習を用いた周波数資源の高密度利用を実現するための研究
	モシニヤガ	高橋	ドップラーセンサとLSTM RNNによる転倒自動検出に関する研究
	吉村	中西	部分並列構造を含む日本語文の構文解析に関する研究
	名倉	中村	ICNにおけるFake型コンテンツポイズニング攻撃の影響分析
	高橋	鶴田	複数人を対象としたマルチモーダル対話システムの開発
	名倉	佐藤(寿)	高信頼集積回路における過剰テスト環境の改善
	高橋	鶴田	深層学習による移動先の予測需要を用いたD2D キャッシュ制御方式
	鶴田	中村	AS間トポロジに基づく情報指向ネットワークの普及過程分析
	吉村	中西	うつ傾向発見サポートシステムの開発
化学システム工学 ～ 20名	高橋	鶴田	段階的畳み込み自己符号化器を用いたミツバチ画像分類手法の検証
	加藤(貴)	加藤(勝)	最終処分場における水銀廃棄物固化体の埋立特性に関する研究
	八尾	加藤(貴)	側鎖結晶性ブロック共重合体によるポリエチレン多孔膜の改質効果の分子量ならびに溶媒依存性
	三島	久保田	マイクロプラスチック代替化粧品の開発
	八尾	加藤(貴)	側鎖結晶性ブロック共重合体を用いた延伸ポリテトラフルオロエチレンの表面改質と生体適合性評価
	加藤(勝)	加藤(貴)	ニトロセルロースの無機系新規安定剤の開発
	重松	新戸	各種発酵速度および酵素活性への生薬類の添加効果
	松隈	鈴川	表面調整剤を含む溶液の蒸発挙動
	加藤(勝)	重松	硝酸グアニジン/塩基性硝酸銅系ガス発生剤の添加剤が圧力指数へ及ぼす影響
	鈴川	松隈	水平配置円筒槽を用いた攪拌槽の基本特性 ～ 壓型槽との比較 ～
	三島	野田	シャシヤンボ葉の抗酸化物質の抽出およびマイクロカプセル化
	加藤(勝)	加藤(貴)	硝酸アルミニウム/尿素誘導体混合物の燃焼合成による α アルミナの調製
	久保田	加藤(貴)	リン酸塩電解質を用いた電気化学セルによる水と二酸化炭素からのメタン合成の研究
	重松	新戸	オタネニンジンのエタノール発酵促進効果と同時糖化発酵への応用

2.5 修士論文と博士論文、学生が受賞した学術賞

2.5.1 修士論文

令和4年度 修士論文論題及び審査委員一覧

専攻	主査	副査	論題
化学システム工学 ～20名)	八尾	松隈	直鎖状低密度ポリエチレンの定常せん断・動的せん断による物性の劣化と回復のメカニズムの解析
	野田	鈴川	有害アラームによるヒューマンエラー防止のための論理アラーム処理技術の開発
	鈴川	松隈	低レイノルズ数域におけるコッホ型フラクタル翼の攪拌特性
	三島	新戸	レボフロキサシンの機能性マイクロコーティング
	八尾	松隈	二軸押出機による再混練処理がリサイクルポリプロピレン成形品の力学特性・内部構造に与える影響
	八尾	松隈	せん断緩和機構が廃棄家電由来PPの力学物性及び内部構造へ与える影響
	三島	加藤(貴)	骨からのオステオカルシン抽出とマイクロカプセル化
建設工学 ～16名)	堺	田中	角形鋼管柱とコンクリート床スラブ間の圧縮挙動およびバーリング鋼板による応力伝達改善効果
	佐藤(研)	村上	混合方式の違いに着目した石炭灰・製鋼スラグ混合破碎材の土木資材への適用に関する研究
	塙越	高山	実環境下での1成分形ウレタン系シーリング材の硬化特性の測定と予測手法の提案
	堺	田中	アンカーボルトを用いた鋼管杭頭接合部の弾塑性変形性状および設計法
	太記	宮崎	大学キャンパスのパブリックスペース整備前後における空間の階層性の変化と利用実態—福岡大学キャンパスを事例として—
	佐藤(研)	村上	雨水が浸透する路盤支持力挙動の解明とその管理手法の提案
	村上	佐藤(研)	断裂帯に着目した豪雨時斜面道路防災マップの提案
	太記	池添	明治期の海軍が建設した煉瓦兵器庫に関する研究—仕様書から見るものづくり体系—
	橋本	渡辺(亮)	河川改修による断面変化が水位ハイドログラフに及ぼす影響
	宮崎	太記	現代における聞香空間
	渡辺(浩)	坂田	写真測量を活用した周辺環境を含めたVRの作成手法の検討
	太記	池添	日本の1920-1940年代における建築家が設計した家具と建築の関係について～本野精吾、藤井厚二、堀口捨己を対象として～
	柴田	辰巳	景観関連事業の整備効果とその測定手法に関する考察
	村上	佐藤(研)	Newmark法を用いた表層すべりによる地震時滑動量予測法の提案と火山灰質土斜面への適用
	佐藤(研)	村上	地盤条件に応じた竹チップ改良工法の適用に関する研究
	辰巳	柴田	画像認識AIを活用した生活道路における事故発生交差点の予測に関する研究
(資源循環・環境工学 ～3名)	添田	櫛原	再振動締固めによる耐久性改善の効果に関する基礎的研究
	山本	添田	繊維強化ポリプロピレンと繊維強化ポリアミド66の引張強度に及ぼす温度の影響
	為田	柳橋	焼却残渣の海面埋立に伴う余水、浸透水水質に関する研究

2.5.2 博士論文

令和4年度 博士論文論題及び審査委員一覧

区分	専攻	主査	副査	論題
課程博士	エネルギー・環境システム工学専攻	柴田	佐藤(研)	道路維持管理の実態と利用者連携に関する研究
			辰巳	
			石橋 (長崎大学)	
		花井	根葉	発光分光法と分光画像診断法を用いて評価した大気圧Hermsteinグローコロナ放電の電界の空間分布測定に関する研究
			浪平 (熊本大学産業ナノマテリアル研究所)	
		重松	佐藤(研)	電気透析法による副生塩リサイクルおよび難分解性有機物の電気分解に関する研究
			大矢 (北九州市立大学)	
	情報・制御システム工学専攻	大橋	太郎丸	THE DUAL CHANNEL IP-TO-NDN TRANSLATION GATEWAY: A HOST-TO-NAME SEMANTIC NETWORK PROTOCOL TRANSLATION
			中里 (早稲田大学)	
		三島	末次	超臨界流体を用いたマイクロカプセルの製造
			野田	
			岩井 (九州大学)	

2.5.3 学生が受賞した学術賞

令和4年度 受賞一覧

専攻 (課程)	受賞時 の年次	賞名	授与団体	年月
電気工学専攻 【博士課程前期】	1年	Elsevier student's awards	Elsevier	令和4年9月
	2年 (修了後)	第14回九州支部賞 優秀業績賞	電気設備学会 九州支部	令和4年5月
	2年 (修了後)	第14回九州支部賞 全国大会 優秀賞	電気設備学会 九州支部	令和4年5月
	2年 (修了後)	第14回九州支部賞 全国大会 優秀賞	電気設備学会 九州支部	令和4年5月
	2年	第14回九州支部賞 全国大会 優秀賞	電気設備学会 九州支部	令和4年5月
	1年	最優秀グループ賞	九州パワーアカデミー	令和4年10月
	2年	全国大会優秀発表賞	電気設備学会	令和4年12月
	1年	全国大会優秀発表賞	電気設備学会	令和4年12月
	1年	第75回電気・情報関係学会九州支部連合大会優秀論文発表賞B賞	電気学会九州支部	令和4年12月
	2年	2022 IEEE DEIS Japan Chapter Student Best Paper Presentation Award in IEEE DEIS related International Conference	IEEE DEIS Japan Chapter	令和5年3月
	2年	電気学会九州支部長賞	電気学会九州支部	令和5年3月
電子情報工学専攻 【博士課程前期】	1年	Student Design Contest 3rd Place Winner Award	2022 IEEE Midwest Symposium on Circuits and Systems	令和4年8月
	2年	Outstanding Student Paper Award for Oral Presentation	2022 IEEE 4th Global Conference on Life Sciences and Technologies	令和4年7月
	2年	学術奨励賞	電子情報通信学会九州支部	令和5年3月

2.5.3 学生が受賞した学術賞

令和4年度 受賞一覧

専攻 (課程)	受賞時 の年次	賞名	授与団体	年月
化学システム工学専攻 【博士課程前期】	2年	火薬学会 2022年度春季研究発表会 優秀講演賞	火薬学会	令和4年5月
	2年	火薬学会 2022年度秋季研究発表会 優秀講演賞	火薬学会	令和4年11月
	2年	第32回九州地区若手ケミカルエンジニア討論会ポスター賞	化学工学会	令和4年7月
	2年	第33回九州地区若手ケミカルエンジニア討論会ポスター賞	化学工学会	令和4年7月
建設工学専攻 【博士課程前期】	2年	令和4年度 公益社団法人地盤工学会九州支部 優良学生賞	公益社団法人地盤工学会九州支部	令和5年3月
	2年	令和4年度 土木学会西部支部 研究発表会 優秀講演者賞	公益社団土木学会西部支部	令和5年3月
	1年	令和4年度 土木学会全国大会 年次学術講演会 優秀講演者賞	公益社団土木学会	令和4年9月
エネルギー・環境システム工学専攻 【博士課程後期】	3年	2022年度研究奨励表彰	九州パワーアカデミー	令和5年3月

第3章 研究活動

3.1 学術論文と学会発表、学術賞

令和4年度 論文等研究成果の発表状況

学科・グループ	論文	講演	著書	その他
機械工	24	100	5	15
電気工	11	38	1	4
電子情報工	24	55	0	0
化学システム工	21	139	5	15
社会デザイン工	41	112	4	22
建築	16	45	1	4
資源循環・環境	3	41	6	14
図学	0	0	0	0
計	140	530	22	74

令和4年度 学術賞受賞実績

令和4年度 論文等研究成果の発表状況

学科・グループ	受賞数
機械工	1
電気工	13
電子情報工	7
化学システム工	2
社会デザイン工	14
建築	0
資源循環・環境	0
図学	0
計	37

3.2 科学研究費採択課題一覧

令和4年度

科学研究費（独立行政法人日本学術振興会 所管）

制度	研究費目	学科・グループ	課題
補助金分	基盤研究（B）	電子情報工学科	情報指向無線ネットワークを利用した災害時情報共有システムの設計
		化学システム工学科	漢方薬残渣の発酵促進効果を活用した第二世代バイオエタノール製造の高効率化
		化学システム工学科	微生物に対する微小プラスチックと化学物質の複合毒性発現のメカニズム究明および制御
		化学システム工学科	ナノ・リボソームの連続調製を目的としたCO ₂ マルチ相変化による向流接触法の構築
基金分	基盤研究（C）	機械工学科	次世代冷媒の状態方程式最適化に資する高精度液相音速測定および密度との同時計測
		電気工学科	多重内部反射赤外分光その場計測によるアモルファス炭素膜のスパッタ成膜機構の解明
		電気工学科	協働ロボットの表面に巻き付け可能な紐状近接覚・触覚センサ
		電子情報工学科	Computational Ethologyのための複数個体行動追跡手法の開発
		電子情報工学科	強度輸送方程式法による空間直交振幅変調信号光の非干渉検出に関する研究
		電子情報工学科	道路走行映像の自由視点再現技術を活用した自動運転における運転者の挙動分析
		電子情報工学科	LSIの動的電力制御技術を応用した電力解析攻撃の対策
		電子情報工学科	階層化による冗長ヘッダ情報の削減と新フレームフォーマットの開発
		電子情報工学科	地方議会活動コーパス構築のためのレガシーページPDF文書の構造化に関する研究
		化学システム工学科	プラント事故防止のためのプラント運転データからの有害アラーム抽出技術の開発
		化学システム工学科	Development of supercritical carbon dioxide mediated micro particles of juvenile hormone analogues (JHAS) for the elimination of mosquito-borne diseases
		社会デザイン工学科	木質バイオマス灰を用いた環境安全性に配慮した再生砕石技術の確立に関する研究
		社会デザイン工学科	情報バイアスを有する地盤情報群を用いる層区分AI推定と精度評価
		社会デザイン工学科	炭素固定化量の最大化と中性化抑制の両立による新たな低炭素型コンクリートの開発
		社会デザイン工学科	水処理汚泥の発生抑制に向けた超微細気泡に内包させたオゾンの活用と作用機序の解明
	研究活動スタート支援	社会デザイン工学科	比重差選別と炭酸化処理を併用した改質焼却灰の土木資材利用に関する研究
		建築学科	バーリングプレス加工した機械的ずれ止めによる鋼とコンクリートの接合設計法
		建築学科	躯体と内外装材を一体とした外壁の耐久性評価システムと高性能外壁保護仕上材の開発
		建築学科	空間検索性に着目した3D IsoVist Graphによる空間評価手法の開発
		機械工学科	せん断型疲労き裂進展下限界に基づく析出強化型Ni基超合金の疲労強度評価手法の確立
		電子情報工学科	トマト果実の「収穫しやすさ」の定義及び自動収穫システムへの適用
若手研究	若手研究	機械工学科	観察窓付き淀み点燃焼器を用いたハイブリッドロケット用低融点燃料の燃焼モデル確立
		機械工学科	ナノ繊維添加によるハイブリッドCFRTPの接合強度・耐久性発現メカニズムの解明
		機械工学科	せん断型疲労き裂進展下限界に基づく析出強化型Ni基超合金の疲労強度評価手法の確立
		電気工学科	窒素ファインパブルや非イオン界面活性剤を用いた菜種油の高性能化に向けた基礎研究
		電気工学科	入射波の事前情報が不要な三次元逆散乱解析法の開発
		電子情報工学科	コンテンツ指向型センサネットワークにおけるセキュアキャッシング手法の研究開発
		電子情報工学科	トマト果実の「収穫しやすさ」の定義及び自動収穫システムへの適用
		化学システム工学科	限界酸素濃度以下のイナーティングシステムにおける新規リスク評価手法提案
研究活動スタート支援	若手研究	化学システム工学科	超小型衛星での推進剤利用に向けた高エネルギーイオン液体の安定性評価フレーム構築
		建築学科	鋼構造オフィスビル床・壁の木質化へ向けた接合部開発に関する研究
		建築学科	地域主体のまちづくりにおける創発的福祉モデルの持続性に関する研究

3.3 産学連携活動の外部資金（受託研究・研究助成・共同研究）

令和4年度

受託研究費の学科・グループ別合計金額

学科・グループ	金額
機械工学科	3,015,455 円
電気工学科	0 円
電子情報工学科	64,573,976 円
化学システム工学科	194,184,000 円
社会デザイン工学科	29,337,745 円
建築学科	2,760,000 円
資源循環・環境グループ	39,915,252 円
工学部（56件）	333,786,428 円

研究助成寄附金の学科・グループ別合計金額

学科・グループ	金額
機械工学科	300,000 円
電気工学科	850,000 円
電子情報工学科	3,248,105 円
化学システム工学科	11,970,000 円
社会デザイン工学科	4,440,500 円
建築学科	8,636,000 円
資源循環・環境グループ	2,300,000 円
工学部（46件）	31,744,605 円

共同研究の学科・グループ別合計金額

学科・グループ	金額
機械工学科	10,600,000 円
電気工学科	4,500,000 円
電子情報工学科	35,319,000 円
化学システム工学科	6,700,000 円
社会デザイン工学科	10,340,000 円
建築学科	8,800,000 円
資源循環・環境グループ	1,500,000 円
工学部（44件）	77,759,000 円

第4章 入学・広報活動

4.1 入試制度

工学部における令和5年度入試（令和4年度実施）制度は、前年度と同様である。

学科	入学定員	令和5年度入試（令和4年度実施）における募集人員												
		学校推薦型 ・ 総合型選抜		一般選抜					特別選抜					
		学校推薦型 (A方式)	総合型 (工学部)	総合型 (アスリート特別)	系統別日程	前期日程	後期日程	前期日程・共通テスト併用型	共通 テスト 利用型	I期	II期	社会人	帰国生徒	編・転・学士
機 械 工 学 科	110	14	2	3 程 度	10	55	3	8	4	3	若干人	若干人	若干人	若干人
電 気 工 学 科	110	14	3		10	55	3	8	4	3	/			
電 子 情 報 工 学 科	150	19	2		14	75	4	13	5	4	/			
化 学 シ ス テ ム 工 学 科	110	12	3		10	55	3	8	4	3	/			
社 会 デ ザ イ ン 工 学 科	110	14	2		10	50	3	13	4	3	若干人			
建 築 学 科	110	14	2		10	50	3	13	4	3	/			

4.2 入試状況

令和5年度入試の工学部における実施状況は以下の通りである。なお、いずれも合格者に追加合格者は含まない。

令和5年度入試		系統別日程					前期日程				
学科	募集人員	受験者	合格者	競争率	合格最低点/400	募集人員	受験者	合格者	競争率	合格最低点/300	
機械工学科	10	160	78	2.1	203	55	593	276	2.1	160	
電気工学科	10	178	75	2.4	200	55	531	249	2.1	150	
電子情報工学科	14	212	71	3.0	235	75	1180	401	2.9	181	
化学システム工学科	10	126	71	1.8	181	55	401	236	1.7	147	
社会デザイン工学科	10	115	61	1.9	190	50	378	188	2.0	146	
建築学科	10	114	37	3.1	230	50	692	229	3.0	181	

令和5年度入試		後期日程				前期日程・共通テスト併用型			
学科	募集人員	受験者	合格者	競争率	募集人員	受験者	合格者	競争率	
機械工学科	3	25	11	2.3	8	281	173	1.6	
電気工学科	3	8	2	4.0	8	263	186	1.4	
電子情報工学科	4	33	9	3.7	13	559	208	2.7	
化学システム工学科	3	15	8	1.9	8	217	191	1.1	
社会デザイン工学科	3	16	3	5.3	13	207	176	1.2	
建築学科	3	26	4	6.5	13	312	135	2.3	

令和5年度入試	共通テスト利用型							
	I期				II期			
学科	募集人員	受験者	合格者	競争率	募集人員	受験者	合格者	競争率
機械工学科	4	124	81	1.5	3	57	38	1.5
電気工学科	4	69	40	1.7	3	46	27	1.7
電子情報工学科	5	255	116	2.2	4	123	48	2.6
化学システム工学科	4	118	83	1.4	3	44	23	1.9
社会デザイン工学科	4	74	45	1.6	3	49	27	1.8
建築学科	4	123	76	1.6	3	66	29	2.3

令和5年度入試	学校推薦型・総合型選抜						特別選抜							
	学校推薦型(A方式)		総合型(工学部)		総合型(アス特)		社会人		帰国生徒		編・転・学士		学部留学生	
学科	受験者	合格者	受験者	合格者	志願者	合格者	受験者	合格者	受験者	合格者	受験者	合格者	受験者	合格者
機械工学科	11	9	5	3	0	0	0	0	0	0	2	1	3	3
電気工学科	13	7	3	3	0	0			0	0	1	0	0	0
電子情報工学科	47	25	5	2	1	1			0	0	0	0	3	2
化学システム工学科	12	8	1	1	0	0			0	0	0	0	0	0
社会デザイン工学科	13	10	5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
建築学科	43	22	16	3	1	1			0	0	0	0	0	0

4.3 模擬講義

令和4年度に工学部で行った模擬講義は以下の通りである。学科略称を以下に示す。

機械工学科 (TM) 電気工学科 (TE) 電子情報工学科 (TL)

化学システム工学科 (TK) 社会デザイン工学科 (TC) 建築学科 (TA)

日付	高校名	場所	参加学年	参加者	タイトル・内容	担当者	学科
6/10	玄洋	対面	3年生	8	福岡大学工学部ガイダンス	松岡 耕	TE
7/12	佐賀東	学内	2年生	19	流体力学模擬講義「流体談話-その楽しさと悩ましさ」	稻毛 真一	TM
7/15	誠英	学内	1、2年生	66	電力機器の耐雷保護と放電プロセスの応用	高村 紀充	TE
7/16	中村学園三陽	対面	2年生	13	福岡大学工学部ガイダンス	松岡 耕	TE
7/16	中村学園三陽	対面	2年生	11	福岡大学工学部ガイダンス	渡辺 亮一	TC
7/26	香椎	対面	2年生	21	環境にやさしい技術・施策の日欧比較	鈴木 慎也	TC
8/3	福岡工業	学内	1、2年生	90	地球温暖化における人工知能の役割	稻毛 真一	TM
8/4	福岡工業	学内	1、2年生	90	電気工学の範囲と雷の研究	花井 正広	TE
8/5	福岡工業	学内	1、2年生	90	移動空間を覗よう～自動車はロボット？	小野 晋太郎	TL
9/8	稻築志耕館	対面	3年生	14	卒業研究中間発表会	松岡 耕	TE
9/15	田川	学内	2年生	44	景観デザイン-快適な都市の作り方-	柴田 久	TC
9/16	春日	対面	2年生	16	住環境と地球環境を同時に考えることは可能か？	塙越 雅幸	TA
9/29	三養基	対面	1、2年生	11	工学部ガイダンス	渡辺 浩	TC
10/1	佐賀清和	対面	1年生	125	対話ロボットと人工知能	高橋 伸弥	TL
11/2	延岡学園	対面	1、2、3年生	115	新しい発想に文学やロマンが必要であることについて化学分野から説明	八尾 滋	TK
11/12	長崎南山	対面	1、2、3年生	20	大学の進路選択から考える高校生の進路選択のあり方講座	村上 哲	TC
12/15	龍谷	学内	1年生	37	景観デザイン-快適な都市の作り方-	柴田 久	TC
2/16	小倉西	対面	1年生	50	工学部ガイダンス	太郎丸 真	TL
3/15	福岡工業大学附属城東	対面	2年生	9	夢と化学と工学～身の回りの化学～	加藤 貴史	TK
3/15	福岡工業大学附属城東	対面	2年生	11	コンピューターと日本語	吉村 賢治	TL
3/15	福岡工業大学附属城東	対面	2年生	14	社会インフラの維持管理	檀原 弘貴	TC
3/15	長崎南山	対面	1、2年生	20	大学の進路選択から考える高校生の進路選択のあり方講座	村上 哲	TC

第5章 教務・図書・学生支援

5.1 学生在籍状況

令和4年度工学部学籍一覧表

令和4年5月1日現在

学科	年次 入学年	1年 2022	2年 2021	3年 2020	4年 2019	5年 2018	6年 2017	7年 2016	8年 2015	9年 2014	合計
機械工	女子	1	3	8	8						20
	休学			2	1						3
	在籍	110	112	95	125	12	5	3			462
電気工	女子		1	1	3						5
	休学			2							2
	在籍	106	105	101	102	21	2	2			439
電子情報工	女子	14	10	8	13						45
	休学				2	1					3
	在籍	152	144	136	137	15	8				592
化学システム工	女子	33	23	34	34	1					125
	休学							1			1
	在籍	104	92	106	118	11		0			431
社会デザイン工	女子	15	22	16	13	1					67
	休学		1								1
	在籍	97	120	106	107	10		1			441
建築	女子	36	36	38	40	3					153
	休学		1	1							2
	在籍	118	104	103	113	10	1	2			451
工学部	女子	99	95	105	111	5	0	0	0	0	415
	休学	0	2	5	3	1	0	1	0	0	12
	在籍	687	677	647	702	79	16	8	0	0	2,816

5.2 学年暦

令和4年度 工学部学年暦

年月日			事 項	
令和4年	4	1 金	入学式	
		2 土	新入生履修登録ガイダンス	
		3 日	新入生履修登録開始	
		11 月	前期授業開始	
	5	21 土	創立記念日	
		29 日	父母懇談会(松山)	
	6	5 日	父母懇談会(大分)	
		11 土	特待生表彰式	
		12 日	父母懇談会(山口)	
		18 土	父母懇談会(本学)	
		26 日	父母懇談会(長崎)	
	7	2 土	父母懇談会(鹿児島)	
		3 日	父母懇談会(熊本)	
		10 日	父母懇談会(大阪)	
		21 木	前期授業終了	
		22 金	前期定期試験開始	
		31 日	前期定期試験終了(予備日)	
令和5年	8	1 月	前期集中講義(~5日)	
		4 木	夏季休業開始	
		7 日	オープニングパス	
	9	1 木	前期成績発表	
		5 月	後期履修登録変更(~7日)	
		後期集中講義(~9日)		
		13 火	夏季休業終了	
		14 水	前期学士合格者発表	
	10	17 土	総合型選抜(~10/15日)	
		19 月	後期授業開始	
		24 土	前期卒業式	

5.3 専門科目

【機械工学科】令和4年度入学生(23台)

【共通教育科目（省略）】

△印は選択必修

	第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
工学共通科目	必修科目	微分積分Ⅰ 微分積分Ⅱ 行列と行列式Ⅰ 行列と行列式Ⅱ 力学A 化学A 化学実験	2 2 2 2 2 2 2	物理学C 物理学実験	2 2				
	小計	14		4					
	選択科目	力学B 物理学A 化学B 図学Ⅰ	2 2 2 2	統計 微分積分Ⅲ 微分積分Ⅳ 関数論	2 2 2 2	数理統計Ⅰ 数理統計Ⅱ 物理学D 基礎防災学	2 2 2 2		
	小計	8		8			8		
	計	22		12			8		
	専門科目	必修科目	工業力学Ⅰ 技術者リテラシーⅠ	2 1	材料力学Ⅰ 流体工学Ⅰ 流体工学Ⅱ 工業熱力学Ⅰ 工業熱力学Ⅱ 機械加工法 機械制御工学Ⅰ 機械製図法 金属材料学 機械力学Ⅰ 工業力学Ⅱ 機械工作実習	4 2 2 2 2 2 2 1 2 2 1	材料試験 機械要素設計Ⅰ 機械力学・制御実験	1 2 1	
			小計	3	24		4	2	
			選択科目	機械工作法 機構学 情報処理入門	△ 機械工学設計演習A 計測工学 材料力学Ⅱ 技術者リテラシーⅡ	2 1 2 4 1	固体力学Ⅰ 固体力学Ⅱ ターボ機械 工作機械 流体力学Ⅰ 流体力学Ⅱ 伝熱工学Ⅰ 伝熱工学Ⅱ ヒートポンプ・空調工学 機械要素設計Ⅱ 機械制御工学Ⅲ ロボット工学 機械力学Ⅱ △ 機械工学設計演習B △ 機械工学設計演習C △ 機械工学設計演習D △ 機械工学設計演習E 工業経営 数値解析 熱エネルギー変換工学 トライボロジー 機械材料学 複合材料学 機械情報処理 電気工学通論 電子工学通論 化学工学通論 技術者リテラシーⅢ 流体機械 総合工業論	卒業論文	6
	小計	6		10			55	6	
	計	9		34			59	8	

(注) △印の機械工学設計演習は5科目中、3科目以上を修得すること。

【電気工学科】令和4年度入学生(22名)

【共通教育科目（省略）】

△印は選択必修

	第1年次		第2年次		第3年次		第4年次	
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
工 学 共 通 科 目	必修科目	微分積分Ⅰ 微分積分Ⅱ 行列と行列式Ⅰ 行列と行列式Ⅱ 力学A 力学B 物理学実験	2 2 2 2 2 2 2					
	小計	14						
	選択科目	化学A 化学B 図学Ⅰ	2 2 2	統計 化学実験 物理学A 物理学B 微分積分Ⅲ 微分積分Ⅳ 関数論 力学C	2 2 2 2 2 2 2 2	基礎防災学	2	
	小計	6		16			2	
	計	20		16			2	
	必修科目	電気磁気学Ⅰ 電気磁気学Ⅱ 電気回路Ⅰ 電気回路Ⅱ 基礎電気工学 電気入門Ⅰ 電気入門Ⅱ	2 2 2 2 1 1 1	電気磁気学Ⅲ 電気磁気学Ⅳ 電気回路Ⅲ 電気回路Ⅳ 電気計測Ⅰ 電気計測Ⅱ 電気物性論Ⅰ 電気物性論Ⅱ 電気機器Ⅰ 電気機器Ⅱ 電気基礎実験Ⅰ 電気基礎実験Ⅱ	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	発変電工学Ⅰ 発変電工学Ⅱ 制御工学Ⅰ 制御工学Ⅱ 電力伝送工学Ⅰ 電力伝送工学Ⅱ 電気材料Ⅰ 電気材料Ⅱ パワーエレクトロニクスⅠ パワーエレクトロニクスⅡ デジタル制御工学	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	卒業論文
	小計	11		24			22	3
	選択科目	コンピュータ基礎Ⅰ コンピュータ基礎Ⅱ	2 2	情報処理Ⅰ 情報処理Ⅱ 電子回路Ⅰ 電子回路Ⅱ	2 2 2 2	高電圧工学 照明電熱工学 通信工学 数値解析 プログラム技法 電子工学Ⅰ 電子工学Ⅱ 電気法規及び施設管理 応用電気化学大意 ○電気工学実験Ⅰ ○電気工学実験Ⅱ 総合工業論	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	電力システム工学 システム工学 電気機器設計学 電気設計製図 ○電気工学実験Ⅲ 技術者倫理・安全管理
専 門 教 育 科 目	小計	4		8			24	12
	計	15		32			46	15

(注) ○印の電気工学実験は3科目中、2科目以上を修得すること。

【電子情報工学科】令和4年度入学生(22台)
[共通教育科目 (省略)]

		第1年次		第2年次		第3年次		第4年次	
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
工学共通科目	必修科目	微分積分 I	2						
		微分積分 II	2						
		行列と行列式 I	2						
		行列と行列式 II	2						
		力学A	2						
		力学B	2						
	選択科目	物理学実験	2						
		小計	14						
		図学 I	2	化学A 化学B 力学C 物理学A 統計 化学実験	2 2 2 2 2 2	基礎防災学 数理統計 I 数理統計 II	2 2 2		
		小計	2	12			6		
	計		16	12			6		
必修科目	全コース共通	電気回路 I	2	論理回路	2	電子情報工学特別演習	1		
		電気回路 II	2	電子情報工学実験	2				
		プログラミング I	2	電子情報基礎演習	1				
		プログラミング II	2	データ構造とアルゴリズム I	2				
		基礎電気磁気学	2						
	電子通信	電子情報工学特論	2						
		小計	12	7			1		
				電気磁気学 半導体工学 電子回路 デジタル信号処理 通信工学 I デジタル電子回路	2 2 2 2 2 2	工業数学 電子通信工学実験	2 2		
		小計		12			4		
		小計							
専門教育科目	情報コース			計算機工学 I 情報理論 プログラミング演習 I プログラミング演習 II	2 2 1 1	マイクロコンピュータ オペレーティングシステム 計算機ネットワーク 情報工学実験 A 情報工学実験 B	2 2 2 1 1		
		小計		6			8		
				オートマトンと言語理論 情報数学 データ構造とアルゴリズム II 計算機工学 I 情報理論 プログラミング演習 I プログラミング演習 II	2 2 2 2 2 1 1	データベースシステム 情報処理システム開発 マイクロコンピュータ オブジェクト指向プログラミング プロジェクト指向プログラミング プロセス外型ソフトウェア開発演習 オペレーティングシステム 計算機ネットワーク ネットワークシステム 情報系のための確率・統計 情報セキュリティ 情報工学実験 A 情報工学実験 B	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 1	卒業論文 情報職業論	6 2
		小計		12			22		8
		小計		6			14		8
	選択科目	全コース共通		△ 数値計算法 △ 制御工学 △ アナログ回路	2 2 2	△ 通信工学 II ▲ 計算機工学 II 計算機工学 III センサーと計測 通信・放送システム 工業英語 総合工業論	2 2 2 2 2 2	ロボティクス マルチメディア概論 工業経営 情報化社会論	2 2 2 2
		小計							
		電子通信コース		△ 電磁波理論 △ 情報理論 △ 電子物性 電気回路 III 関数論 微分積分 III 微分積分 IV 計算機工学 I プログラミング演習 I	2 2 2 2 2 2 2 2 1	△ 磁子系のための情報処理 △ 集積回路プロセス △ 通信応用 △ 半導体デバイス △ 光エレクトロニクス マイクロコンピュータ オペレーティングシステム 計算機ネットワーク 情報処理システム開発 ネットワークシステム 情報系のための確率・統計 情報セキュリティ 通信法規 物理学 D	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	△ 卒業論文 情報職業論	6 2
		小計		17			28		8
		情報コース		電気磁気学 オートマトンと言語理論 情報数学 データ構造とアルゴリズム II 電子回路 デジタル信号処理 通信工学 I コンバータ構成法	2 2 2 2 2 2 2 2	データベースシステム オブジェクト指向プログラミング 情報処理システム開発 ▲ ネットワークシステム 情報系のための確率・統計 情報セキュリティ 知識工学 画像処理工学 自然言語処理工学 音声情報処理工学	2 2 2 2 2 2 2 2	卒業論文 情報職業論	6 2
		小計		16			20		8
	情報システムコース			電気磁気学 電子回路 デジタル信号処理 通信工学 I コンバータ構成法	2 2 2 2 2	△ 知識工学 △ 画像処理工学 △ 自然言語処理工学 △ 音声情報処理工学	2 2 2 2		
		小計		10			8		

- (注) (1) 電子通信コースの学生は選択科目(全コース共通)及び選択科目(電子通信コース)の△印の科目のうち20単位以上修得すること。
 (2) 情報コースの学生は選択科目(全コース共通)及び選択科目(情報コース)の▲印のうち1科目以上修得すること。
 (3) 情報コースの学生は選択科目(全コース共通)及び選択科目(情報コース)の4年次開講科目より6単位以上修得すること。
 (4) 情報システムコースの学生は選択科目(情報システムコース)の△印のうち2科目以上修得すること。

【化学システム工学科】令和4年度入学生(22名)
【共通教育科目（省略）】

△印は選択必修

		第1年次		第2年次		第3年次		第4年次	
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
工 学 共 通 科 目	必 修 科 目	微分積分 I	2						
		行列と行列式 I	2						
		力学A	2						
		基礎物理化学A	2						
		基礎物理化学B	2						
		物理学実験	2						
		化学実験	2						
工 学 共 通 科 目	選 択 科 目	微分積分 II	2	統計	2	基礎防災学	2	数理統計 I	2
		行列と行列式 II	2	微分積分IV	2				
		力学B	2	関数論	2				
		物理学A	2	物理学C	2				
				力学C	2				
		小計	14						
		小計	8		10		2		2
専 門 教 育 科 目	必 修 科 目	修学基礎演習	1	化学工学演習 I	1	化学工学演習 II	3	化学工学演習 III	1
		化学工学と社会	2	化学工学実験 I	4	化学工学実験 II	6	化学工学演習 IV	1
		基礎無機化学	2	技術者倫理	2	外書講読・コミュニケーション	2	化学工学特別講義	2
		基礎有機化学 I	2	生物科学	2	反応工学	2	卒業論文	4
		基礎有機化学 II	2	情報処理基礎	2	研究開発序論	2		
		分析化学	2	化学工学プログラミング	2	地球環境科学	2		
		化学工学計算法	2	応用物理化学	2				
専 門 教 育 科 目	選 択 科 目	化学反応速度論	2	化学反応速度論	2				
		流体工学	2						
		小計	13		19		17		8
		ス化学工学科		化学工学数学	2	伝熱工学	2	化学装置設計	2
				粉粒体工学	2	拡散分離工学	2		
						物質移動工学 I	2		
		小計				輸送現象	2		
専 門 教 育 科 目	必 修 科 目	分子工学科		工業有機化学	2	化学プロセス工学	2		
				環境安全工学	2	プロセスシステム工学	2		
				工業無機化学	2				
		小計							
		分子工学科		工業有機化学	2	無機製造化学	2	高分子化学	2
				環境安全工学	2	触媒プロセス工学	2		
		小計				工業有機材料	2		
専 門 教 育 科 目	選 択 科 目	分子工学科		物質移動工学 II	2	物質移動工学 II	2		
				応用物性工学	2	応用物性工学	2		
		小計							
		分子工学科		グラフィックデザイン	2	機器分析	2	エネルギー工学概論	2
				工業無機材料	2	量子化学概論	2		
						工業微生物学概論	2		
		小計	4						
専 門 教 育 科 目	必 修 科 目	分子工学科		工業有機化学	2	無機製造化学	2	高分子化学	2
				環境安全工学	2	触媒プロセス工学	2		
				工業無機化学	2	工業有機材料	2		
		小計				物質移動工学 II	2		
		分子工学科				応用物性工学	2		
		小計							
		分子工学科		化学工学数学	2	伝熱工学	2	化学装置設計	2
				粉粒体工学	2	拡散分離工学	2		
		小計				物質移動工学 I	2		
		分子工学科				輸送現象	2		
		小計				化学プロセス工学	2		
		分子工学科				プロセスシステム工学	2		
		小計							

(注) いずれのコースの学生も、両コース共通選択科目及び履修するコースの選択科目について3年次科目から4単位以上修得しなければならない。

【社会デザイン工学科】令和4年度入学生(22名)
【共通教育科目 (省略)】

△印は選択必修

		第1年次		第2年次		第3年次		第4年次	
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
工 学 共 通 科 目	必 修 科 目	微分積分 I	2	物理学実験	2				
		微分積分 II	2						
		行列と行列式 I	2						
		行列と行列式 II	2						
		力学A	2						
		力学C	2						
		統計	2						
	小計	14		2					
選 択 科 目	選 択 科 目	図学	2	化学A	2	基礎防災学	2		
		物理学A	2	化学実験	2				
				微分積分III	2				
	小計	4		微分積分IV	2				
	計	18		10		2		2	
専 門 教 育 科 目	必 修 科 目	建設景観学	2	静定構造力学及び演習	3	橋梁工学	2	卒業論文	4
		建設材料学	2	不静定構造力学及び演習	3	河川工学	2		
		環境工学概論	2	基礎水理学及び演習	3	地盤工学	2		
		測量学	2	応用水理学及び演習	3	都市計画	2		
		測量実習	2	基礎地盤力学及び演習	3	環境アセスメント	2		
		社会デザインの力学基礎	2	応用地盤力学及び演習	3	構造・空間デザイン演習	2		
		工業数学	2	社会基盤計画学	2	材料・地盤実験	2		
		社会デザインとの出会い	1	交通計画学	2	キャリアデザイン	2		
				コンクリート工学	2	キャリア演習	1		
				鉄筋コンクリート	2	技術者倫理	2		
				建設施工学	2				
				地球環境工学	2				
				上下水道学	2				
				水理・環境実験	2				
				情報処理演習	1				
	小計	15		35		19		4	
	選 択 科 目					耐震工学・地震防災	2		
						水資源工学	2		
						防災・環境地盤工学	2		
						景観デザイン論	2		
						建設マネジメント	2		
						廃棄物資源循環工学	2		
						実践測量実習	1		
						建設CAD	2		
						社会基盤の維持管理	2		
	小計	15		35		21			
	計	15		35		40		4	

【建築学科】令和4年度入学生(22台)

【共通教育科目 (省略)】

△印は選択必修

		第1年次		第2年次		第3年次		第4年次	
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
工 学 共 通 科 目	必 修 科 目	微分積分 I	2	物理学実験	2				
		行列と行列式 I	2						
		力学A	2						
		図学 I	2						
		図学 II	2						
	小計		10		2				
工 学 共 通 科 目	選 択 科 目	微分積分 II	2	統計	2				
		行列と行列式 II	2	化学実験	2				
		力学B	2	力学C	2				
		化学A	2						
		化学B	2						
	小計		10		6				
	計		20		8				
専 門 教 育 科 目	必 修 科 目	全 コ ー ス 共 通	建築学概論	2	構造力学の基礎 II	2	建築法規	2	卒業計画
			建築構造概論	2	構造力学の基礎 III	2	空気調和設備	2	技術者倫理
			構造力学の基礎 I	2	コンクリート工学	2	都市環境管理学	2	
			建築デザイン基礎 I	3			鉄骨構造の基礎	2	
			建築デザイン基礎 II	3	建築設計 I	3	集合建築論	2	
			住宅計画	2	建築設計 II	3	鉄筋コンクリート構造の基礎	2	
			建築環境学概論	2	建築計画 I	2	建築生産管理	2	
			情報処理演習	1	建築計画 II	2	建築学特別演習	1	
					意匠論 I	2			
					建築環境学基礎	2			
					建築構法	2			
	小計		17		24		15		8
	必 修 科 目	コ ー ス 合 計					都市計画	2	地域計画
							建築設計 III	3	
							構造計画	2	
	必 修 科 目	設 計 ・ ス 計 画					ランドスケープデザイン論	2	
							意匠論 II	2	
							小計	11	2
	専 門 教 育 科 目	構 造 コ ー ス					都市計画	2	
							建築設計 III	3	
							総合設計 I	3	
	専 門 教 育 科 目	構 造 コ ー ス					近代建築史	2	
							意匠論 II	2	
							小計	12	
	専 門 教 育 科 目	構 造 コ ー ス					地震工学	2	
							鉄筋コンクリート構造の設計法	2	
							構造計画	2	
	専 門 教 育 科 目	構 造 コ ー ス					鉄骨構造の設計法	2	
							骨組の構造力学	2	
							コンピュータ構造解析法	2	
	専 門 教 育 科 目	構 造 コ ー ス					建築材料実験	2	
							建築構造演習・実験	2	
							近代建築史	2	
	小計							18	
専 門 教 育 科 目	育 科 目	全 コ ー ス 共 通	構造力学演習 I	2	構造力学演習 II	2	建築材料性能計画	2	建築防災
			造形実習 I	1	建築光環境	2	建築音環境	2	総合設計 II
					西洋建築史	2	建築衛生設備	2	
					建築技術史	2	建築実務演習	2	
					建築 CAD	2	建築基礎構造	2	
					プログラミング基礎	2	建築構造設計演習	2	
					測量実習	2	木質構造	2	
					建築キャリアデザイン	1	日本建築史	2	
					建築情報	2	総合工業論	2	
					造形実習 II	1			
	小計		3		18		18		5
	選 択 科 目	総 合 コ ー ス					地震工学	2	
							鉄筋コンクリート構造の設計法	2	
							鉄骨構造の設計法	2	
							建築構造演習・実験	2	
							骨組の構造力学	2	
							コンピュータ構造解析法	2	
							建築材料実験	2	
							総合設計 I	3	
	小計							2	
	選 択 科 目	構 造 コ ー ス					近代建築史	2	
	小計							19	
	選 択 科 目	設 計 ・ 計 画 コ ー ス					地震工学	2	
							鉄筋コンクリート構造の設計法	2	
							構造計画	2	
							鉄骨構造の設計法	2	
							建築構造演習・実験	2	
							骨組の構造力学	2	
							コンピュータ構造解析法	2	
							建築材料実験	2	
	小計							2	
	構 造 コ ー ス								
	小計							12	2

5.4 図書工学部分室書籍貸出数

工学部分室蔵書冊数は、令和 2 年度に図書館の所蔵の取り扱いの変更のため大きく減少したが、それ以降の分室蔵書は増加が続いている。所蔵開始当初は、分室の書架狭隘のため、分室の蔵書としていた図書のうち利用が少ない図書は旧中央図書館に別置され、平成 24 年の新中央図書館設立時に自動書庫へ移管されていた。令和 2 年度のシステムリプレイス以前は中央図書館自動書庫へ移管した図書も分室の蔵書として集計していたが、システムリプレイスに伴い所蔵場所で集計することに変更された。そのため、令和 2 年度に中央図書館自動書庫の工学部分室所蔵の図書が中央図書館の所蔵となり、分室の蔵書冊数が減少した。

また、工学部分室の書籍貸出数および工学部の学生と教職員への図書貸出冊数（本館＋分室）は、令和 2 年度に新型コロナ感染対策に伴う大学構内での活動制限によって大きく減少したものの、制限が緩和された令和 3 年度以降は増加が続き、令和 4 年度はコロナ禍以前の水準に戻りつつある。

工学部分室蔵書冊数（図書・雑誌）

年度	図書			雑誌			蔵書冊数 合計	全学蔵書 冊数
	和書	洋書	小計	和書	洋書	小計		
平成 30 年度	80,283	37,019	117,302	26,802	33,622	60,424	177,726	2,026,754
令和元年度	80,972	37,451	118,423	27,136	33,921	61,057	179,480	2,042,234
令和 2 年度	59,872	17,858	77,730	11,382	14,003	25,385	103,115	2,052,402
令和 3 年度	60,224	17,671	77,895	11,676	14,301	25,977	103,872	2,062,889
令和 4 年度	60,559	17,852	78,411	11,915	14,579	26,494	104,905	2,074,059

工学部分室の書籍貸出数

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
学部学生	3,637	3,680	1,030	2,826	3,207
その他学生	2	12	0	12	13
大学院生	765	674	455	754	1,153
教職員	5,659	5,762	4,362	4,598	4,644
学外者	27	68	0	0	0
合計	10,090	10,196	5,847	8,190	9,017

図書貸出冊数（本館＋分室）

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
工学部学生	5,373	5,794	1,636	4,120	4,882
工学研究科学生	1,114	825	494	999	1,649
工学部教職員	6,092	5,936	4,766	4,837	4,756

5.5 学生が取得した資格

令和4年度

学科名	資格	人数
電気工学科	第三種電気主任技術者	1
	第三種電気主任技術者（科目合格）	3
電子情報工学科	ファイナンシャルプランナー 3級	5
	基本情報技術者	1
化学システム工学科	化粧品成分検定2級	1
	アロマテラピー検定1級	1
建築学科	宅地建物取引士	1
	色彩検定UC級	1
	中国語検定4級	1
	韓国語能力試験2級	1
	商業施設土補	3

5.6 「学習意欲の向上と工学基礎教育の充実」プロジェクト

【取組目標】

(1) ものづくり研修

機械工・電気工・電子情報工・化学システム工の4学科は、外部業者に委託し、学内セミナーとして「自己の探求Ⅰ（自分を知り、他者を知り、チームビルディングを行う）」プログラムを、社会デザイン工・建築の2学科は、日帰り研修で専門性を生かす場の見学を予定した。

このセミナー及び研修を行うことで、グループ学習による学生同士のコミュニケーションの場を提供し、教員と学生の親睦及び学科の連帯感の醸成、更に施設見学や研修発表会などを通して学習意欲の向上も目指すとともに、入学した学科への興味と将来の目標を持たせることにより、大学の学習環境への適応を促進し、初年次教育の充実を図ることを取り組み目標とした。また、ものづくりセンターではプロジェクト企画を実施し、ものづくりを通して工学的感性を養い、体験による知識や技術力を備えさせることを取組目標とした。

(2) 学習支援室（T-Square）の設置

4号館の5階またはヒューマンディベロップメントセンターに学習支援室を設置し、工学部教員OBおよび理学部の教員の協力も得て、学生相談及び学習指導に当たることを取組目標とした。

【成果】

(1) ものづくり研修

学内セミナーについては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンラインにより実施した。学生同士のコミュニケーションの場を提供し、自己発見・相互理解・チームビルディングなどのセッションを通して、人前で話す練習や人の話を聞いてその気持ちを理解する練習を行った。また、グループワーク（共同作業）を通じてクラスの中で友達を作るとともに、チームワークの大切さを学ぶセミナーについては、5年度は3年ぶりに対面での実施を予定しているため、今回の経験を生かした企画をお願いしている。

日帰り研修については、社会デザイン工学科と建築学科が実施した。建築学科については、学生は事前学習を行ったうえで、建築物の見学をとおして、その場で資料を参照しながら、引率教員に質問するなど、意欲的な様子がうかがえた。建築への興味がわき、学生間の交流と親睦を深めることができた。社会デザイン工学科では、福岡市地下鉄七隈線延伸事業の現場見学会を実施した。具体的には、開業前の七隈線博多駅を訪問し、まずは福岡市職員による概要説明を受け、その後、ホームから線路に降り、トンネル工法の違いなどについて説明を受けながら見学することで、今後学ぶ専門分野に関する関心を高め、学習意欲の向上を図ることができた。

また、ものづくりセンターでは、5つのプロジェクト活動を企画した。昨年度はコロナの蔓延により中止されていた大会なども今年度より再開され、ロボコン等の全国大会への出場を目指し、学部、学科の垣根を越えたチームでのものづくりに取り組むことが出来た。

(2) 学習支援室「T-Square」の設置

4号館の5階に気軽に様々な悩みの相談できる場所「学習支援室(T-Square)」を開設し、8人の学部学生を対象に、様々な授業科目の学習サポートを延べ147コマ(1コマ90分)学習支援を行った。実際にはHDセンターでサポート支援を実施することも多く、学力不振であった学生を少しづつではあるが学力を身につけさせている。課題は、指導を受ける学生の人数に対して、指導する教員の数が足らないことである。

第6章 国際交流

6.1 学生の留学状況

令和4年度海外派遣学生数

学部実施分	海外研修 マレーシア 0人
国際センター実施分	交換留学 0人、海外研修 0人

6.2 「情報技術を用いたグローバル対応エンジニア教育」プロジェクト

コロナ禍で原則として遠隔講義が実施されると共に行動制限が徹底された。当初の計画通りに取り組むことは困難であったものの、工学部グローバル人材育成委員会を中心に学部全体でグローバル人材育成活動に取り組んだ。

(1) 英語能力検定試験 TOEIC

英語能力検定試験 TOEIC については、講義等で案内することで、受験者数の改善を図った。その結果、大学院受験者の多くが TOEIC 試験を受験していた。

(2) SNS やインターネットテレビ会議を用いた国際交流

ソーシャルネットワークサービス (SNS) やインターネットテレビ会議を用いて、学生が海外と交流できる実践的英会話力、英文表現力、英文読解力、プレゼンテーション力、ファシリテーション能力を涵養するために、平成 23 年に部門間協定を締結したインドネシア・イスラーム州立大ジャカルタ校、平成 26 年に締結したマレーシアのペトロナス工科大学、韓国の培材大学、平成 29 年に締結したマレーシアのサイバージャヤ医療科学大学、インドネシアのイスラーム州立大学マラン校、イタリアのパドゥア大学、フランスのバイオ産業大学と継続的に国際交流を行っている。令和 2 年度からは、ベトナム国家大学ホーチミン市校工科大学、タイのモンクット王工科大学ラートクラバン校、マルタ共和国のマルタ芸術科学技術大学、インドネシアのラジャアリハジャマリティン大学、ベトナムのダラット大学、マレーシアの国際イスラム大学マレーシア、ボスニア・ヘルツェゴビナのバニヤ・ルカ大学、東サラエボ大学と大学間協定を締結した。

さらに令和 3 年度にはオーストラリアのカーティン大学、インドネシアのイルランガ公立大学と大学間協定を締結した。また、タイのチュラロンコン大学とは部門間協定を締結した。これらの活動により、協定校の教員、学生と本学の教員、学生の間で、ソーシャルネットワークサービス (SNS) やインターネットテレビ会議を用いた海外交流が加速した。

(3) 国際プレゼンテーション・コンテスト

コロナ禍のため、学生が個人又はチームで参加する「国際プレゼンテーション・コンテスト」の開催を延期していた。令和4年度においては国際センター主催とした上で、工学部教員が実施担当として再開した。文系・理系問わず11組21名の学生が参加し、大盛況に終えられた。このうち8組13名が工学部在籍の学生であった。

(4) 海外現地調査

海外調査については、コロナ禍のため中止を余儀なくされた。

(5) さくらサイエンス交流事業

工学部教員が実施担当として国際青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンスプログラム)に申請し採択された。オーストラリア「カーティン大学」、アメリカ合衆国「北マリアナ大学」、インドネシア「スラバヤ工科大学」、「州立イスラム大学ジャカルタ校」、「州立イスラム大学マラン校」以上5校から学生9名と教員3名を招き【持続可能な環境適合型ごみ処理・水関連先端技術研修】をテーマに国際科学技術交流を行った。

開 催 日： 令和4年9月1日（木）～10日（土）

テ ー マ： 持続可能な環境適合型ごみ処理・水関連先端技術研修

コ ー ス： 科学技術研修コース

実 施 責 擔 者： 三島健司国際センター長

実施主担当者： 鈴木慎也工学部国際センター委員

6.3 大学間協定・部門間協定

工学部が担当として新規に下記の大学と大学間協定を締結した。

(1) オーストラリア カーティン大学

また、新規に下記の大学と部門間協定を締結した。

(1) 台湾 元智大学

(2) 台湾 致理科技大学

第7章 就職・進路状況

平成30年度から令和4年度までの5カ年の工学部および工学研究科の就職・進路状況は以下の資料に示す通りである。

これらの資料より、工学部の就職率（就職者/就職希望者数）は令和3年度よりも1.0%増加した98.7%である。就職率は高水準の状態を維持している。

全学部の就職率は令和3年度よりも0.5%増加した96.6%（文系95.5%、理系98.6%）となっている。コロナ禍以降も円安や原材料価格の高騰などの影響で採用拡大に慎重な姿勢を見せるもあり、先行き不透明な状況である。

一方、これまでの工学部各学科における就職対策の成果は、近年の高水準の就職率を導いているものと考えられ、先行き不透明な今後の状況においても引き続き工学部各学科における学生への就職活動に対するサポートと指導が重要になると考えられる。

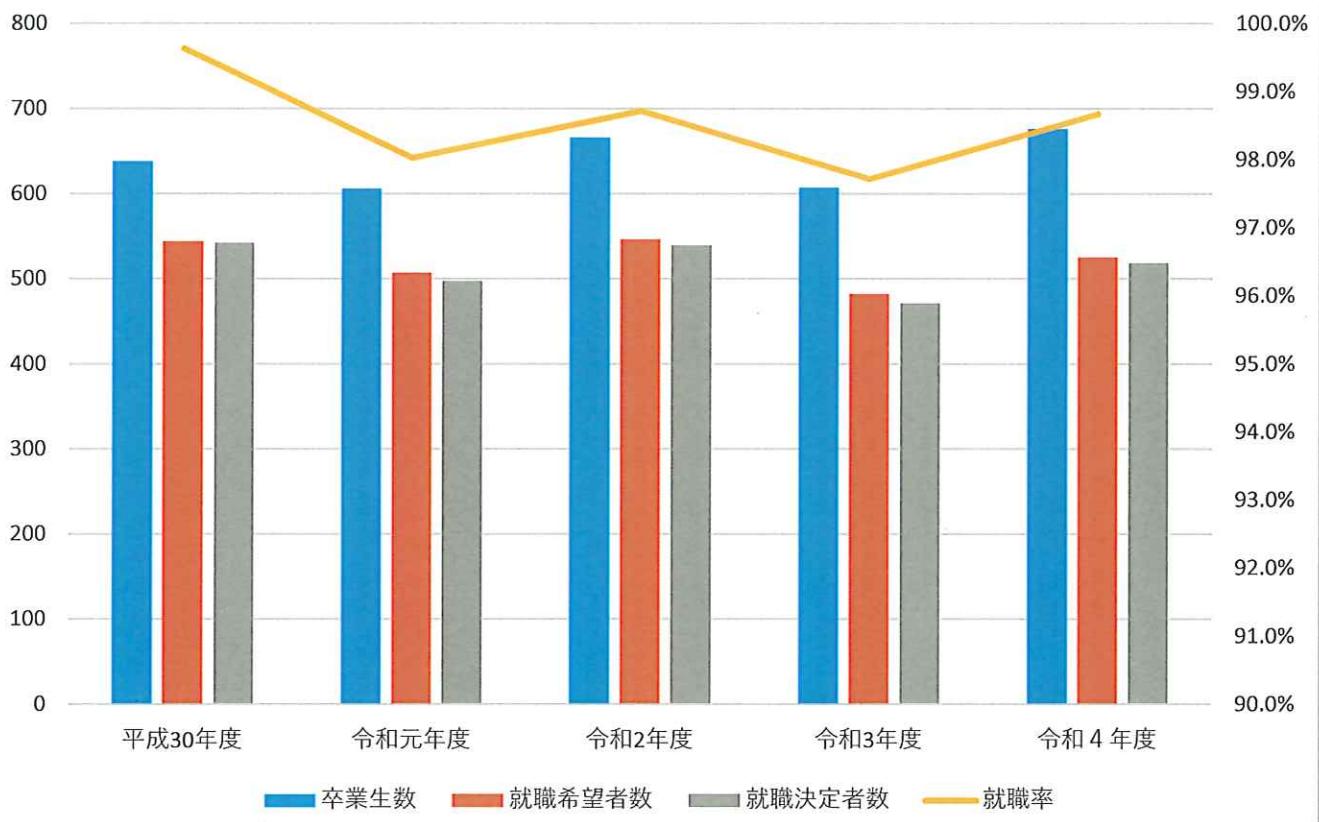
また、令和4年度の大学院進学状況については、進学者数が令和3年度の1.5倍に増加しており、進学率は5.3%増加した18.6%となっている。進学率は5カ年間で増加傾向にある。

7.1 就職状況

平成30年度から令和4年度までの5年間の工学部全体の就職状況の推移

年	卒業生数	就職希望者数	就職決定者数	就職率
平成30年度	638	544	542	99.6%
令和元年度	606	507	497	98.0%
令和2年度	666	546	539	98.7%
令和3年度	607	482	471	97.7%
令和4年度	676	525	518	98.7%

平成30年度から令和4年度までの5年間の工学部全体の就職状況の推移



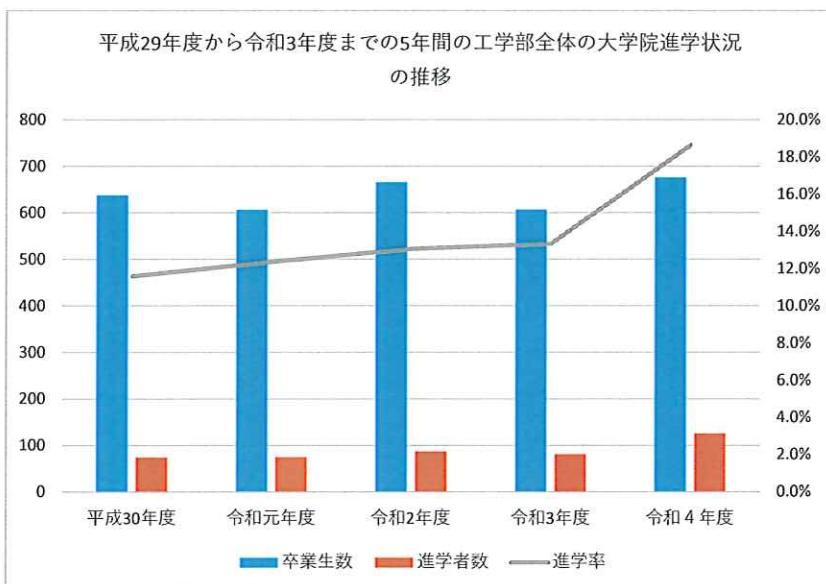
平成30年度から令和4年度までの5年間の工学部学科別就職状況

学科		卒業生数	就職希望者数	就職決定者数	就職率
機 械 工 学 科	平成30年	110	102	102	100.0%
	令和元年	89	77	74	96.1%
	令和2年	109	89	89	100.0%
	令和3年	98	80	79	98.8%
	令和4年	126	103	102	99.0%
電 気 工 学 科	平成30年	97	84	84	100.0%
	令和元年	86	78	76	97.4%
	令和2年	97	79	78	98.7%
	令和3年	88	64	63	98.4%
	令和4年	110	95	94	98.9%
電子情報工学科	平成30年	129	112	111	99.1%
	令和元年	129	112	109	97.3%
	令和2年	151	121	119	98.3%
	令和3年	134	104	100	96.2%
	令和4年	122	98	93	94.9%
化学システム工学科	平成30年	101	71	71	100.0%
	令和元年	104	70	69	98.6%
	令和2年	99	77	75	97.4%
	令和3年	87	64	61	95.3%
	令和4年	119	72	72	100.0%
社会デザイン工学科	平成30年	93	76	76	100.0%
	令和元年	106	93	93	100.0%
	令和2年	111	97	97	100.0%
	令和3年	100	86	86	100.0%
	令和4年	100	83	83	100.0%
建 築 学 科	平成30年	108	99	98	99.0%
	令和元年	92	77	76	98.7%
	令和2年	99	83	81	97.6%
	令和3年	100	84	82	97.6%
	令和4年	99	74	74	100.0%

7.2 大学院進学

平成30年度から令和4年度までの5年間の工学部全体の大学院進学状況の推移

年	卒業生数	進学者数	進学率
平成30年度	638	74	11.6%
令和元年度	606	75	12.4%
令和2年度	666	87	13.1%
令和3年度	607	81	13.3%
令和4年度	676	126	18.6%



平成30年度から令和4年度の5年間における工学部学生の進学先

年	進学先（括弧内の数字は進学者数で1名の場合は省略）
平成30年度	福岡大学(44), 九州大学(12), 佐賀大学, 大阪府立大学, 早稲田大学(2), 九州工業大学, 愛媛大学, 鳴門教育大学, 大阪大学, 山形大学, 大阪市立大学
令和元年度	福岡大学(59), 九州大学(9), 九州工業大(3), 北陸先端科学技術大学院大学, 早稲田大学, 鳴門教育大学, 鹿児島大学
令和2年度	福岡大学(72), 九州大学(10), 東京工業大学(2), 神戸大学, 東京大学, 東北大学
令和3年度	福岡大学(65), 九州大学(8), 立命館大学(3), 鹿児島大学, 東北大学, 長崎大学, 東京都立大学, 東京工業大学
令和4年度	福岡大学(99), 九州大学(14), 立教大学, 早稲田大学, 鹿児島大学, 筑波大学, 東京大学, 山口大学, 大分大学, 熊本大学, 福岡教育大学, 岡山県立大学, 芝浦工業大学, 日本女子大学, 福岡歯科大学

平成30年度から令和4年度までの5年間の工学部学科別大学院進学状況

学科		卒業生数	進学者数	進学率
機 械 工学科	平成30年	110	4	3.6%
	令和元年	89	10	11.2%
	令和2年	109	18	16.5%
	令和3年	98	13	13.3%
	令和4年	126	21	16.7%
電 気 工学科	平成30年	97	9	9.3%
	令和元年	86	7	8.1%
	令和2年	97	12	12.4%
	令和3年	88	14	15.9%
	令和4年	110	11	10.0%
電子情報工学科	平成30年	129	12	9.3%
	令和元年	129	11	8.5%
	令和2年	151	13	8.6%
	令和3年	134	17	12.7%
	令和4年	122	19	15.6%
化学システム工学科	平成30年	101	26	25.7%
	令和元年	104	28	26.9%
	令和2年	99	21	21.2%
	令和3年	87	17	19.5%
	令和4年	119	44	37.0%
社会デザイン工学科	平成30年	93	16	17.2%
	令和元年	106	12	11.3%
	令和2年	111	10	9.0%
	令和3年	100	8	8.0%
	令和4年	100	12	12.0%
建 築 学 科	平成30年	108	7	6.5%
	令和元年	92	7	7.6%
	令和2年	99	13	13.1%
	令和3年	100	12	12.0%
	令和4年	99	19	19.2%

第8章 地域貢献

工学部および工学研究科では、教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動、ボランティア活動、学外組織との連携協力による教育研究の推進などを行っている。

8.1 社会へのサービス活動

令和4年度の講演活動は、工学部・工学研究科全体で48件であった。企業や技術者団体、行政機関等が主催する技術者向けの専門性の高い講習会・研究集会での講演をはじめ、環境問題をテーマとした一般市民や学生向けのセミナーなどの幅広い講演活動を行っている。

審議会・委員会活動では、国および地方自治体が設置する審議会・委員会の委員等に就任し、大学研究者としての社会的役割を果たしている。特に、社会デザイン工学科では、景観、交通、都市計画、災害対策など数多くの審議会・委員会に参画している。

8.2 社会へのボランティア活動

令和4年度の社会へのボランティア活動は、工学部・工学研究科全体で12件であった。研究開発支援拠点の運営、環境問題に対するイベントや出前講座への参画、地域でのボランティア活動を行っている。

8.3 学外組織との連携協力による教育研究の推進

令和4年度の学外組織との連携協力による教育研究は、工学部・工学研究科全体で26件であった。様々な専門分野において研究成果の実用化や技術者育成等を目指し、行政機関、民間企業、他大学との共同研究、自治体の計画および事業への参画による研究成果の還元等の活動に積極的に取り組んでいる。

8.1.1 社会へのサービス活動 ①講演活動

学科・グループ	活動名（主催者名）
機械工学科	再生可能エネルギー技術者向け講習会（MORESCO株式会社）
	久留米市的一般の方々向けハイブリッドロケットの展示（久留米市）
	久留米市的一般の方々向けハイブリッドロケットの一般講演と展示（久留米市）
	夏のリコチャレ2022 機械工学サマースクール（市民講座）
	企業技術者向けマルチボディダイナミクス講習会（日本機械学会）
電気工学科	表面・真空に関する市民講座の実施（日本表面真空学会九州支部）
電子情報工学科	デジタル回路設計新人技術者向け講習会 (公益財団法人福岡県産業・科学技術振興財団、オリンパス株式会社、ソシオネクスト株式会社他)
化学システム工学科	第53回化学工学の基礎講習会「化学工学基礎」を担当（化学工学会九州支部）
	第53回化学工学の基礎講習会「粉粒体操作」を担当（化学工学会九州支部）
	粉体入門セミナー「液体中の粒子の性質」（日本粉体工業技術協会）
	廃棄物処理施設技術管理者講習（日本環境衛生センター西日本支局）
	SURE コンソーシアム 第22回リサイクル技術セミナー（SURE コンソーシアム）
	プラスチックエージセミナー（株式会社プラスチックエージ）
	第3回ICETI環境セミナー 産官学連携によるプラスチック資源循環の推進 環境配慮設計に基づくものづくりの推進（公共財団法人国際環境技術移転センター）
	第5回目グローバルオープンイノベーション -カーボンニュートラルにおける 日本大学の研究成果のご紹介- オンラインセミナー（株式会社キャンパスクリエイト）
	22-1 高分子ナノテクノロジー研究会（高分子学会 高分子ナノテクノロジー研究会）
	サイエンス&テクノロジー セミナー（サイエンス&テクノロジー セミナー株式会社）
	夏休み子どもサイエンス教室（西新公民館）
	JICA研修「FUNCTION OF COVER SOIL AND AVAILABILITY OF WASTES AS COVER MATERIAL」講義（JICA）
社会デザイン工学科	有明海の再生について・荒尾干潟ラムサール条約湿地登録10周年記念事業「豊饒の海を目指して」 (荒尾市役所)
	小田部小学校防災研修・室見川の危険性（小田部小学校）
	JR古賀駅東口周辺地区まちづくりガイドライン報告会 公演「まちの豊かさと空間デザイン」（古賀市）
	海外の事例から学ぶ都市政策～都市の風格とアイデンティティはどのようにつくるのか～「魅力ある都市空間のデザイン」（公益財団法人 全国市町村研修財団）
	まちを豊かにするみちやひろばのデザイン（都市環境デザイン会議）
	Buenas Practicas en las plazas de las estaciones en Japon (JICA・日本工営都市空間㈱)
	福岡都市圏技術ナレッジ・アライアンス技術研修 講演（福岡市）
	NPO廃棄物地盤工学研究会・第50回勉強会講演（廃棄物学会）
	地盤工学講習会「舗装-設計から維持管理まで」講習会（公益社団法人 地盤工学会）
	令和4年度 道路(は)装技術講習会（長崎県(は)装協会）
	令和4年度 道路舗装技術講習会（日本道路建設業協会）
	第4回純国産メンマサミットin淡路島 講演（淡路市）
	竹資源による自然と経済の循環セミナー（環境省森里川海生態系ネットワーク形成会合）
	パンプーフェスタ@宇部 一日まるごとTAKE竹マルシェ（エシカルパンプー）
	静岡市トライアルパーク蒲原 竹チップ舗装現地見学会（静岡市）
	「設立2周年フォーラム”放射性物質含有土と向き合う”」 講演（一般社団法人 地域国土強靭化研究所）
建築学科	福岡都市圏技術ナレッジ・アライアンス制度 技術研修会 講演（福岡市）
	地盤工学会九州支部ジオ・ランチミーティング 講演（公益社団法人 地盤工学会）
	耐震工学研究会（構造設計者向け講演会、2022年度4回開催）（耐震工学研究会）
	2022年度 鋼構造技術者育成のための講習会（一般社団法人日本鋼構造協会）
	2022年度 鉄骨工事管理責任者認定考査 更新講習会（一般社団法人日本鋼構造協会）
	福岡都市圏技術ナレッジ・アライアンス制度研修会 講師（福岡市）
	合成高分子ルーフィング工業会2022年度拡大理事会 講師（合成高分子ルーフィング工業会）
ものづくりセンター	スタッド溶接技術講習会（一般社団法人スタッド協会）
	建築鉄骨製品検査技術者実技講習会（一般社団法人全国鐵構工業協会）
	鉄骨鉄筋コンクリート造耐震診断資格者講習（日本建築防災協会）
ものづくりセンター	鉄骨製作管理技術者学科講習会（全国鐵構工業協会九州支部）
	ロボット製作をテーマとした小学生向けの出前授業（久留米市立篠山小学校）
ものづくりセンター	i-GIP KYUSHU参加学生、生徒の施設見学（inochi WAKAZO Project）

8.1.2 社会へのサービス活動 ②行政等の審議会・委員会活動

学科・グループ	審議会等の名称・職名
化学システム 工学科	社会福祉法人崇友会若竹保育園・外部評価委員 Asia Pacific Society for Materials Science, 2016 Global Research Efforts on Energy and Nanomaterials (GREEN 2016)・委員
	国土交通省九州地方整備局新技術活用評価会議・委員 福岡県雨量通行規制見直し検討委員会・委員 福岡都市圏技術ナレッジ・アライアンス制度・委員 九州地盤情報システム協議会・企画部会部会長 熊本市液状化対策技術検討委員会・委員 福岡市オンデマンド交通社会実験に係る評価委員会・委員長 一般社団法人九州貸切バス適正化センター・代表理事（会長） 福岡北九州高速道路公社福岡高速道路リフレッシュ工事検討委員会・委員長 久留米市拠点形成・土地利用推進委員会・委員長 福岡北九州高速道路事業再評価監視委員会・副委員長 福岡市総合計画審議会・委員 大分県「大分市交通円滑化検討会」・委員長 糸島市総合計画審議会・委員 天神明治通り街づくり協議会街づくり協議委員会・議長 福岡県県土整備部・建築都市部公共事業再評価検討委員会・委員 九州・長崎IR区域整備推進有識者会議・委員 福岡市福岡箱崎地域都市再生緊急整備地域準備協議会・副委員長 福岡市地下鉄経営戦略懇話会・座長 福岡県都市計画審議会・委員 福岡市附置義務特例制度審査会・アドバイザー 大牟田市中心市街地活性化協議会・委員 天神明治通り街づくり協議会・街づくりアドバイザー 大分都市圏総合都市交通計画推進協議会・委員長 九州地方整備局事業評価監視委員会・副委員長 九州大学箱崎キャンパス跡地利用協議会・委員 筑紫野市地域公共交通会議・委員 公益財団法人九州運輸振興センター懸賞論文審査委員会・委員 公益財団法人九州運輸振興センター・アドバイザー 福岡県都市計画審議会・専門委員 福岡市総合交通戦略協議会・会長 福岡市大規模小売店舗立地協議会・委員/交通部会長 広川町地域公共交通協議会・座長/アドバイザー 久留米市地域公共交通会議・副会長 九州運輸局地域公共交通に関する第三者評価委員会・委員 西鉄柳川駅周辺地区デザイン検討会議・委員 那珂川市都市計画審議会・副会長 福岡県政府調達苦情検討委員会・委員長代理 志免町都市計画審議会・会長代理 福岡県交通対策協議会・委員 福岡市道路下水道局が所管する公の施設に係る指定管理者候補選定委員会・委員長 福岡市都市計画審議会・委員 久留米市都市計画審議会・会長 筑前町公共交通活性化対策委員会・会長
社会デザイン 工学科	

8.1.2 社会へのサービス活動 ②行政等の審議会・委員会活動

学科・グループ	審議会等の名称・職名
社会デザイン 工学科	久山町都市計画審議会・会長
	福岡県総合評価技術委員会委員・委員長
	九州地方整備局総合評価技術委員会・委員
	福岡国道事務所景観委員会・景観アドバイザー
	福岡県環境影響評価・専門委員
	福岡市大規模小売店舗立地協議会・委員
	福岡市保健環境研究委員会・委員
	福津市環境審議会・会長
	福津市・古賀市産業廃棄物連絡協議会・会長
	福岡市環境影響評価専門委員
	豊前市外二町清掃施設組合ごみ処理施設整備計画策定委員会・委員長
	熊本県環境影響評価委員
	北九州市「一般廃棄物収集運搬業務委託における総合評価競争方式審査委員会」・委員
	大野城市生活審議会・委員
	福岡県環境審議会・委員
	国土交通省九州地方整備局・東彼杵道路環境影響評価技術検討委員
	宗像市防災都市づくり検討委員会・委員
	国土交通省九州地方整備局・下関北九州道路技術検討委員
	大牟田市排水対策基本計画検討委員会・委員長
	内閣官房水循環政策本部・水循環アドバイザー
	福岡市こども未来局・福岡市科学館に係る指定管理者評価委員
	国土交通省九州地方整備局山国川河川事務所・山国川河川事務所景観委員
	国土交通省九州地方整備局・九州河川技術懇談会委員
	エフコープ生活協同組合・エフコープ環境助成運営委員
	福岡県京築県土整備部 福岡県長崎川河川整備計画流域協議会・委員
	全国トース土技術研究組合・理事
	福岡県樋井川水系河川整備計画流域協議会・委員
	土木学会環境システム委員会・委員
	国土交通省うるおいのある川づくり技術向上検討会・委員
	福岡県江尻川河川整備計画流域協議会委員・委員
	国土交通省「九州地方整備局景観委員会」・委員長
	広島県「竹原市景観審議会」・委員
	大分県景観計画策定委員会・委員
	福岡県「西公園再整備検討委員会」・委員長
	広島県「竹原市歴史的風致維持向上計画協議会」・委員
	大分県 津久見川・彦の内川 河川激甚災害対策特別緊急事業 景観・まちづくりアドバイザー
	津久見市中心部の活性化に関する検討委員会・委員長
	大分県津久見市庁舎建設専門家検討委員会・委員長
	松浦市景観審議会・委員長
	大分県景観アドバイザー
	久留米市景観アドバイザー
	国土交通省九州地方整備局「宮崎ワシントニアパーク維持管理検討会」・委員
	福岡県警察犯罪予防研究アドバイザー
	宗像市景観審議会・委員/景観アドバイザー
	福岡県環境影響評価専門委員

8.1.2 社会へのサービス活動 ②行政等の審議会・委員会活動

学科・グループ	審議会等の名称・職名
社会デザイン工学科	北九州市景観審議会・委員
	五島市久賀島の文化的景観整備活用委員会・委員
	国土交通省九州地方整備局「宮崎海岸侵食対策検討委員会」及び「同効果検証分科会」・委員
	対馬市巣原地区横町線再整備計画アドバイザー
	福岡市都市景観賞査委員
	福岡市都市景観審議会・委員
	長崎県美しい景観形成アドバイザー
	久留米市景観審議会・委員
	佐賀県美しい景観づくりアドバイザー
	久留米市屋外広告物審議会・委員
	風景デザイン研究会・会長
	うきは市長野伏越周辺利活用委員会・委員
	福岡市技術ナレッジアライアンス制度委員
	福岡市市営地下鉄技術専門委員会・委員
	アスファルト事前審査委員会・委員
	九州地方整備局防災ドクター（TEC-DOCTOR）・道路防災診断委員
	九州地方整備局佐賀国道事務所西九州道法面施工技術検討委員会・委員
	福岡県雨量通行規制見直し検討委員会・委員
	熊本市液状化対策技術検討委員会・委員
	九州地盤情報システム協議会・企画部会部会長
	福岡都市圏技術ナレッジ・アライアンス制度・委員
建築学科	佐賀県環境影響評価審査会・会長
	福岡県環境審議会・委員
	一般財団法人日本建築センター 超高層・免震等建築物構造評定委員会・委員
	一般財団法人日本建築総合試験所 建築構造性能評価委員会・委員
	福岡県土地収用事業認定審議会・委員
	うきは市浮羽まるごと博物館協議会・会員
	福岡市総合評価技術委員会・委員
	福岡都市圏技術ナレッジ・アライアンス制度・委員
	一般社団法人スタッド協会 スタッド溶接技術検定委員会・委員
	福岡県建築都市部プロポーザル選定委員会・委員
	福岡市公共事業再評価等監視委員会・委員
	福岡市設計プロポーザル技術委員会・副委員長
	福岡市空家等審議会・会長
	糸島市公共施設マネジメント検証委員会・委員長
	福岡県マンション管理適正化推進計画策定検討委員会・副委員長
資源循環・環境 グループ	一般財団法人日本建築総合試験所 建築技術性能認証委員会・委員
	福岡県建築物耐震評価委員会・委員
	九州地方整備局防災ドクター（TEC-DOCTOR）・委員
	九州地方整備局総合評価技術委員会・委員
	福岡県リサイクル製品認定審査委員会・委員長
	福岡市橋梁アセットマネジメント推進委員会・委員長
	福岡都市圏技術ナレッジ・アライアンス制度・委員
ものづくりセンター	福岡県公害審査会・委員
	全国給水衛生検査協会簡易専用水道検査外部精度管理検討委員会・委員長
	全国給水衛生検査協会ランキング表示制度運営委員会・委員長
	福岡県教職員組合研究集会・共同研究者
	ロボカップJr・大会運営委員

8.2 社会へのボランティア活動

学科・グループ	活動名
電子情報 工学科	公益財団法人福岡県産業科学技術振興財団 三次元半導体研究センター・センター長
社会デザイン 工学科	樋井川定期清掃活動年4回（流域システム研究室主催）
	笹丘小学校5年生樋井川生物観察会（流域システム研究室）
	笹丘ネイチャークラブ樋井川生物観察会（流域システム研究室）
	笹丘公民館ホタル観察会（流域システム研究室）
	友泉亭公園ホタル観察会（流域システム研究室）
建築学科	警固公園芝生補修活動
	福岡市香陵校区まちづくり協議会におけるまちづくり活動
	研究室による 舞鶴商店 Kids Workshop 建築のきほん
	KASEI（九州建築学生仮設住宅環境改善）プロジェクト
ものづくりセンター	星の原団地集会所改修プロジェクト
	くるめ少年少女発明クラブでの指導（一般社団法人福岡県発明協会）

8.3 学外組織との連携協力による教育研究の推進

学科・グループ	活動名（連携主体名）
電気工学科	半導体エッティング用マスク材の開発（東京エレクトロン テクノロジーソリューションズ株式会社）
電子情報工学科	第7回学研ヒルズ学際駅伝大会 (学研ヒルズ学際駅伝大会実行委員会、九州工業大学社会ロボット具現化センター)
	第1回「50年後、人とロボットは？」はがき絵コンクール (学研ヒルズ学際駅伝大会実行委員会、九州工業大学社会ロボット具現化センター)
	第9回トマトロボット競技会 (トマトロボット競技会実行委員会、九州工業大学社会ロボット具現化センター他)
	直方市遠賀川樋門管理研究開発（直方市、アドバンテック株式会社）
化学システム工学科	硝酸エステルの貯蔵安定性向上のための新規安定剤の開発（旭化成株式会社）
	解体性接着剤に関する研究（旭化成株式会社）
	ニトロセルロースメンブレンの品質評価に関する研究（東洋漉紙株式会社株式会社、デンカ株式会社）
	ニトロセルロースメンブレンの劣化に関する研究（東洋漉紙株式会社、産業技術総合研究所）
	GN/BCN系ガス発生剤の添加物による圧力指数への影響（日本化薬株式会社）
	硝酸エステル類の貯蔵安定性に関する研究（産業技術総合研究所）
	材料再生プロセス開発／材料再生プロセス開発（NEDO）
	木質CCUSを加速する資源循環システムの開発（NEDO）
社会デザイン工学科	災害廃棄物情報プラットフォームに基づく支援活動（国立環境研究所）
	福岡筑後プラスチックリサイクループ研究会（大木町、みやま市、柳川市、大川市、筑後市）
	博多バイパスデザイン検討（国土交通省九州地方整備局福岡国道事務所）
	明治通り交差点デザイン検討（天神明治通り街づくり協議会、株式会社日建設計）
	福岡県営西公園における基本設計・デザイン監修（福岡県県土整備事務所、株式会社オオバ）
	JICAペルー国TOD能力強化プロジェクト・外部有識者（JICA、日本工営都市空間株式会社）
建築学科	湿気硬化型樹脂の硬化特性の解明（オート化学工業株式会社）
	歴史的煉瓦造建築物の補修技術の検討（株式会社修復技術システム）
	太陽光発電と耐荷重計算（公益財団法人北九州産業学術推進機）
	鋼管杭頭接合部の共同開発（株式会社テクノ九州、ウイング工業株式会社）
	合成梁の共同開発（旭化成建材株式会社、岡部株式会社、ワنس設計事務所）
	鉄骨梁貫通孔補強工法の共同開発（旭化成建材株式会社）
	鋼管杭頭接合部の共同開発（岡部株式会社）

第9章 工学部の組織体制

令和4年度 工学部の組織体制

<工学部> 氏名及び学科・教室名等

学 部 長

森山 茂章	機械工学科（令和4年11月30日まで）
辰巳 浩	社会デザイン工学科（令和4年12月1日より）

学 科 主 任

柳瀬 圭児	機械工学科
花井 正広	電気工学科
佐藤 寿倫	電子情報工学科
松隈 洋介	化学システム工学科
村上 哲	社会デザイン工学科
高山 峯夫	建築学科
山本 俊浩	資源循環・環境グループ

経 理 委 員

柳瀬 圭児	機械工学科
岩村 誠人	機械工学科
花井 正広	電気工学科
篠原 正典	電気工学科
佐藤 寿倫	電子情報工学科
鈴木 孝将	電子情報工学科
松隈 洋介	化学システム工学科
野田 賢	化学システム工学科
村上 哲	社会デザイン工学科
渡辺 亮一	社会デザイン工学科
高山 峯夫	建築学科
太記 祐一	建築学科
酒井 幸仁	図学教室
山本 俊浩	資源循環・環境グループ

教務担当

稻毛 真一	機械工学科
孟 志奇	電気工学科（令和4年11月30日まで）
西田 貴司	電気工学科（令和4年12月1日より）
小野 晋太郎	電子情報工学科（令和4年11月30日まで）
中村 遼	電子情報工学科（令和4年12月1日より）
久保田 純	化学システム工学科（令和4年11月30日まで）
野田 賢	化学システム工学科（令和4年12月1日より）
鈴木 慎也	社会デザイン工学科
塚越 雅幸	建築学科
酒井 幸仁	図学教室

図書連絡員

宮田 一司	機械工学科
江田 孝治	電気工学科
大橋 正良	電子情報工学科
鈴川 一己	化学システム工学科
橋本 彰博	社会デザイン工学科
宮崎 慎也	建築学科
奈尾 信英	図学教室
武下 俊宏	資源循環・環境グループ

研究推進部連絡委員

高尾 幸来	機械工学科
江田 孝治	電気工学科
高橋 伸弥	電子情報工学科
松隈 洋介	化学システム工学科
渡辺 浩	社会デザイン工学科
太記 祐一	建築学科
奈尾 信英	図学教室
為田 一雄	資源循環・環境グループ

入学・広報担当

○は入学センター委員

林 長軍	機械工学科
○松岡 豪	電気工学科
篠原 正典	電気工学科（令和4年11月30日まで）
辻 聰史	電気工学科（令和4年12月1日より）
太郎丸 真	電子情報工学科
加藤 貴史	化学システム工学科
櫛原 弘貴	社会デザイン工学科
池添 昌幸	建築学科
添田 政司	資源循環・環境グループ

評議員

遠藤 正浩	機械工学科
吉澤 幹夫	建築学科

大学協議員

野田 賢	化学システム工学科
------	-----------

教務委員

辰巳 浩	社会デザイン工学科（令和4年11月30日まで）
高橋 伸弥	電子情報工学科（令和4年12月1日より）

学生部委員

橋本 彰博	社会デザイン工学科
-------	-----------

図書委員

加藤 貴史	化学システム工学科
-------	-----------

研究推進部委員

松隈 洋介	化学システム工学科
-------	-----------

入学センター委員

松岡 豪	電気工学科
------	-------

国際センター委員

鈴木 慎也 社会デザイン工学科

キャリアセンター委員

吉澤 幹夫 建築学科

学生懲戒委員

太郎丸 真 電子情報工学科

教育職員資格審査委員

西田 貴司 電気工学科

名倉 徹 電子情報工学科（令和4年11月30日まで）

花井 正広 電気工学科（令和4年12月1日より）

アニマルセンター委員

高橋 伸弥 電子情報工学科

RIセンター委員

篠原 正典 電気工学科

中西 恒夫 電子情報工学科

学部調整委員

岩村 誠人 機械工学科（令和4年11月30日まで）

高尾 幸来 機械工学科（令和4年12月1日から）

根葉 保彦 電気工学科（令和4年11月30日まで）

篠原 正典 電気工学科（令和4年12月1日から）

末次 正 電子情報工学科（令和4年11月30日まで）

名倉 徹 電子情報工学科（令和4年12月1日から）

新戸 浩幸 化学システム工学科（令和4年11月30日まで）

久保田 純 化学システム工学科（令和4年12月1日から）

佐藤 研一 社会デザイン工学科（令和4年11月30日まで）

渡辺 亮一 社会デザイン工学科（令和4年12月1日から）

趙 翔 建築学科（令和4年11月30日まで）

吉澤 幹夫 建築学科（令和4年12月1日から）

環境保全センター委員

重松 幹二

化学システム工学科

動物実験委員会委員

田中 綾子

資源循環・環境グループ

エックス線業務責任者

鈴木 孝将

電子情報工学科

附属若葉高等学校一貫教育委員会委員

松岡 肇

電気工学科（入学センター委員）

<委 員 会>

教育に関する会議

○は教務委員

稻毛 真一

機械工学科

孟 志奇

電気工学科（令和4年11月30日まで）

西田 貴司

電気工学科（令和4年12月1日より）

○高橋 伸弥

電子情報工学科（令和4年12月1日より）

小野 晋太郎

電子情報工学科（令和4年11月30日まで）

中村 遼

電子情報工学科（令和4年12月1日より）

久保田 純

化学システム工学科（令和4年11月30日まで）

野田 賢

化学システム工学科（令和4年12月1日より）

○辰巳 浩

社会デザイン工学科（令和4年11月30日まで）

鈴木 慎也

社会デザイン工学科

塚越 雅幸

建築学科

酒井 幸仁

図学教室

教育点検・改善委員

（旧 工学部JABEE委員会）

安東 洋一

機械工学科

住吉谷 覚

電気工学科

中西 恒夫

電子情報工学科

鶴田 直之

電子情報工学科

吉村 賢治

電子情報工学科

新戸 浩幸	化学システム工学科
加藤 勝美	化学システム工学科
柴田 久	社会デザイン工学科
鈴木 慎也	社会デザイン工学科
池添 昌幸	建築学科
塚越 雅幸	建築学科

入学・広報委員会

○は入学センター委員

林 長軍	機械工学科
○松岡 肇	電気工学科
篠原 正典	電気工学科（令和4年11月30日まで）
辻 聰史	電気工学科（令和4年12月1日より）
太郎丸 真	電子情報工学科
加藤 貴史	化学システム工学科
櫛原 弘貴	社会デザイン工学科
池添 昌幸	建築学科
添田 政司	資源循環・環境グループ

グローバル人材育成委員会

○は国際センター委員

森山 茂章	学部長（令和4年11月30日まで）
辰巳 浩	学部長（令和4年12月1日より）
遠藤 正浩	機械工学科
松岡 肇	電気工学科
吉村 賢治	電子情報工学科
三島 健司	化学システム工学科
○鈴木 慎也	社会デザイン工学科
坂田 力	社会デザイン工学科
高山 峯夫	建築学科
田中 綾子	資源循環・環境グループ

令和4年度 工学研究科の組織体制

<工学研究科> 氏名及び専攻名

研究科長

佐藤 寿倫 電子情報工学

博士課程前期・修士課程

主任

山辺 純一郎	機械工学
花井 正広	電気工学
鶴田 直之	電子情報工学
野田 賢	化学システム工学
池添 昌幸	建設工学
山本 俊浩	資源循環・環境工学

博士課程後期

主任

渡辺 浩	エネルギー・環境システム工学
中西 恒夫	情報・制御システム工学

大学院学務委員

久保田 純 化学システム工学

大学院教育職員資格審査委員

花井 正広	電気工学（令和4年11月30日まで）
名倉 徹	電子情報工学（令和4年12月1日より）
趙 翔	建設工学

工学部・工学研究科資料集

Vol.15(2023.11)

令和5年11月30日発行

編集・発行 福岡大学 工学部・工学研究科

福岡大学 〒814-0180

福岡県福岡市城南区七隈八丁目19番1号

TEL (092) 871-6631 (代表)

TAX (092) 865-6031 (教務三課 工学部事務室内)

<https://www.fukuoka-u.ac.jp/education/undergraduate/engineering/>

